明治三十八年三月二十三日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百四拾八號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百八十四號目次

名家演壇

寄書

大家談叢

衛生雜話

質疑欄

食物調理法

中外彙報

大日本婦人衛生會記事

四月例會廣告

來四月一日第一土曜日午後正一時半より神田區一ッ橋通り女子職業學校内に於て例會を開く（晴雨共）左記の講話あり御知友御誘引御來會有之度候也

（姓名いろは順）

一 演題未定　醫學士 寺田織尾君

一 ヂフテリーの話　醫學士 澄川徳君

明治三十八年三月　大日本婦人衛生會

●前號雜誌中の訂正　贊成員之部

濱尾新君を「理學博士」とせしは貴族院議員●石川千代松君を「醫學」とせしは理學博士●長谷川泰君肩書独の一字を加ふ●長井長義君肩書に理の字を脱す●櫻井恒次郎榊保三郎兩君肩書醫學士を脱す●宮本仲君肩書ドクトルを脱す●男爵南部とせしは南部甕男君●大野豐吉は豐太の誤●エベルツはエベルツ肩書に勳一等を脱す●四頁目「修」身會員は終の誤

●會員の部　高木とみ子、金子家壽子、松岡光子、清浦とよ子、菊池たつ子、諸氏の肩書に男爵夫人を脱す●松平光子松井正子兩氏の下子の字を脱す●松井壽滿子は松平（さ）の部二番目賞子は榊賞子清岡かく子の肩書不用

右校正者戰時事務鞅掌の爲め校正を他人に托し爲めに非常の疏漏之段陳謝に堪へず候

會員諸姉に告ぐ

日露兩國の交砲火を以て相酬ゆるに至りてよりはや十月あまりとはなりぬ。國運めでたくして戰はつねに我に利あれども其前途は倘はるかに遠し國をこぞつて共に力を致さむこと國民たるものゝつとめなれば國の爲め親をすて妻子をすてゝ進んで難にあたれる同胞の上を深く思ひやりて自らの力の及ぶかぎりはこれ等の人々の爲めに盡さむことはまた多く言葉を要せざる處なり然りながら世界に數多からぬ強大國を敵として戰ふことにしあれば一と度戰ふ毎に我同胞の傷き斃るゝものゝ甚だしきは萬を以て數ふるに至らんこれが爲め本國に送らるゝ傷病者がいたでになやみて呻吟するさまのいかばかりかなさけなかるべき本會もかねてこれ等の人々の爲め慰の一品たりとも送らばやと思ひ居たる折柄近頃日本赤十字社にては病者に尤も必要なる帽子の夥しく不足せるよしを聞きければ是を寄送することは誠に本會の相應しき事業と思ひ早速臨時會を開きて評議すべかりしも至急を要するの際已むなく役員會議にて種々評議の末本會基本金中より金弐百圓を出して同社へ寄附したり然りながら倘戰況の進むと共に傷病者も益々増加することなればこれ誠に九牛の一毛にも若かざるを思ゆればひろくこれを會員諸姉にはかり一個たりとも多くてれが不足を補はむと欲してこゝに左の定めを設く希くは諸姉幸ひに多少の同情をよせられむ事を（つゞく）

一、本會の傷病者に對する帽子寄送は日本赤十字社本部とす

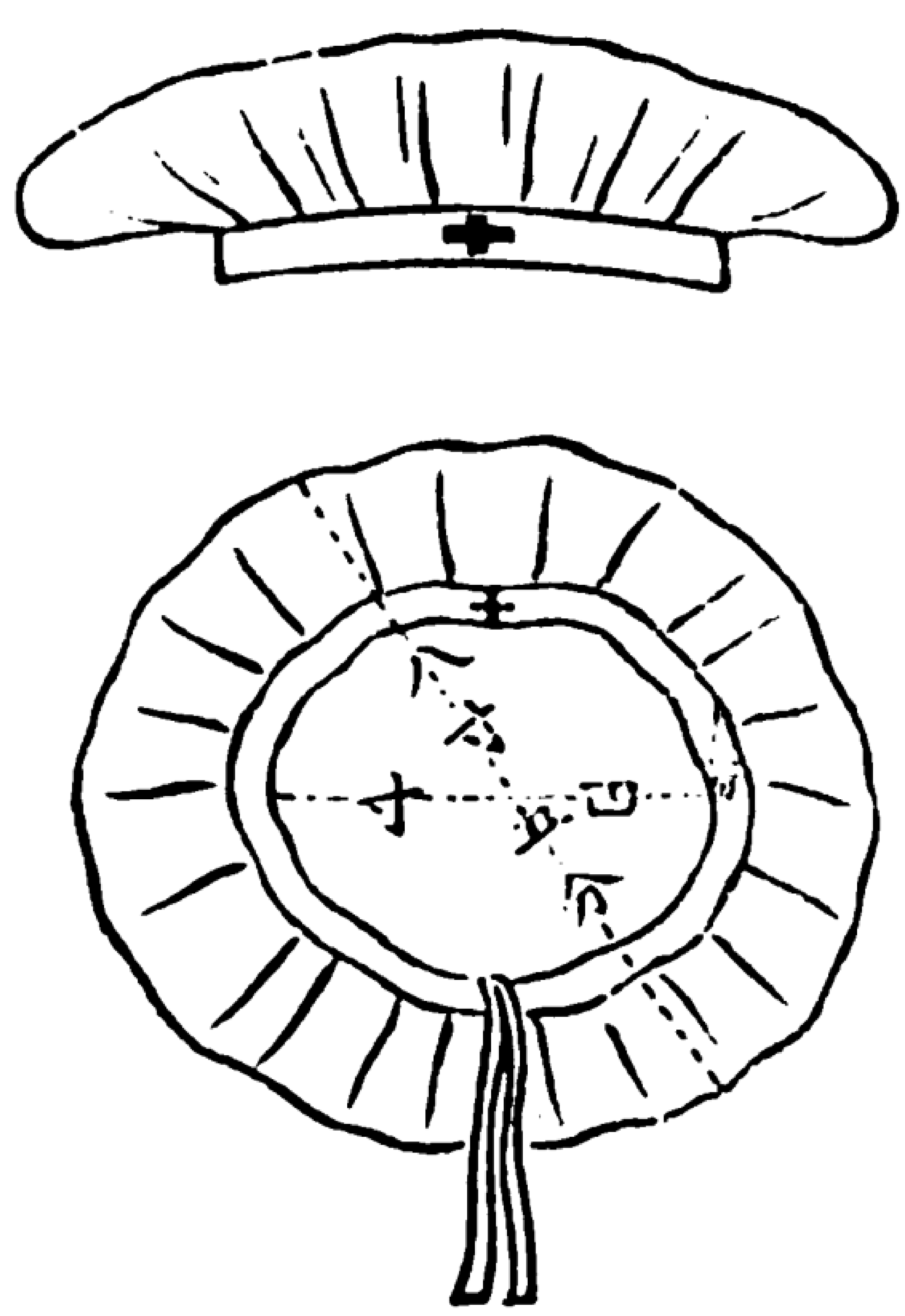
二、寄附者は（現品、現金、）何れとも御隨意本會事務所（麴町區飯田町六町目三番地）迄御差出しあれば本會は直ちに之を取纏めて寄附の運びをなす

三、寄附の金品に對しては本會事務所より受領證を交附すべきも赤十字社よりの受領證は一と纏めにしたるものなれば一々交附せず

四、本會は戰爭終局まで此事業を繼續し何時にても多少に拘はらず其取扱を快諾す

五、寄送者諸姉の人名其他右に關する要用の件は本會雜誌を以て報告す

六、寄送の帽子は左の雛形により調製の事



調製代價は本フランネル綿フランネルの別により多少の相違はあれども凡廿錢以上卅五錢位なり

明治三十七年十一月

大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足りとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす。

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆婦人のもつぱら掌るべき所而其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相續て起り婦人も社會も漸く其の面目を改めんとするは豈に喜ばしきことなりされども夫の衛生の學に至りては更に注意を着かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて同志の婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し併之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の為めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸賢姉に告け其贊成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治卅二年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するとを得

第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるへし入會者には會員章を交付すへし（付手續は卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるへし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるへし

第七條　會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるへし但既納の會費は總て返戻せす

●第四章　役員

第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ宮族の妃殿下に願出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事十名、評議員二十五名、書記若干名

第十一[illegible]

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし郵券送付(わかち)第卅三條 會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所宛の郵便局(麹町飯田橋通郵便局)振出しあるべし第卅四條 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは譴告することあるべし第卅五條 本規則は會長の意見又は會員二十名以上の賛成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所 東京市麹町區飯田町六丁目二番地

私立大日本婦人衛生會

◎役員姓名

總裁 伏見宮依仁親王妃 周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 濱尾作子

(いろは順)

幹事 鳩山春子
仝 羽田三緒子
仝 岡田德子
仝 高木かう子
仝 山本多德子
仝 松平芳子
仝 三浦数子

評議員 伊集院しけ子
仝 石川貞子
仝 濱田捨子
仝 仁禮壽賀子
仝 西升子
仝 穂積歌子
仝 緒方悦子
仝 岡山とし子
仝 男爵夫人 加藤鈴子
仝 片山龜子
仝 子爵夫人 田中いよ子
仝 丹波貞子
仝 高橋孝子
仝 田村きよ子
仝 相馬陸子
仝 男爵夫人 南部郁子
仝 中濱芳子
仝 伯爵夫人 松平充子
仝 子爵夫人 松井正子
仝 子爵夫人 松平久子
仝 木場小ゆり子
仝 岸澄子
仝 三宅保子
仝 宮木榮子
仝 宮下的子

◎支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

(●は本會及支會に於て講演せられし諸氏)

●醫學博士 入澤達吉君
●理學博士 飯島魁君
●ドクトル 伊澤信平君
●色川閑十君
●醫學士 伊東祐彦君
●ドクトル 飯盛挺造君
●醫學博士 伊藤隼三君
●理學博士 石川千代松君
●赤十字社病院醫長 岩井禎造君
醫學士 石原久君
貴族院議員 濱尾新君
●醫學博士 濱田玄達君
●法學博士 鳩山和夫君
東京 萩原瀾四郎君
●醫學博士 芳賀榮二郎君
●長谷川泰君
●新潟 長谷川一詩君
小兒科 小原輔之君
●醫學士 林春雄君
●醫學士 佐藤達次郎君
●醫學博士 緒方正規君

●步兵中佐 堀內文次郎君
●醫學博士 土肥慶藏君
●醫學博士 岸田和一郎君
●醫學博士 大澤謙二君
醫學士 大西秀治君
●醫學博士 大澤岳太郎君
●一等藥劑官 恩田重信君
醫學士 若杉三郎君
●男爵 加藤弘之君
●ドクトル 加藤照麿君
●醫學士 賀古鶴所君
●醫學博士 河本重次郎君
●醫學博士 片山國嘉君
●醫學士 川上雅量君
●醫學博士 金杉英五郎君
●醫學士 篠原光興君
●醫學博士 高橋順太郎君
●ドクトル 高山紀齋君
醫學博士 高木兼寛君
法學博士 高木豊三君
●醫學博士 田代義德君
●新潟 田代亮助君
男爵 高崎正風君
醫學士 竹中成憲君
●醫學士 高山耕安君
●新潟縣私立醫長 高橋啟五郎君
●藥學博士 丹波敬三君
醫學士 高橋貞碩君
●藥學博士 田原良純君
●醫學士 田村光顯君
●醫學士 久保猪之吉君
醫學士 米山[illegible]郎君
●三等軍醫正 星野孫光君
●醫學士 宮本叔君
●一等軍醫 橫井忠成君

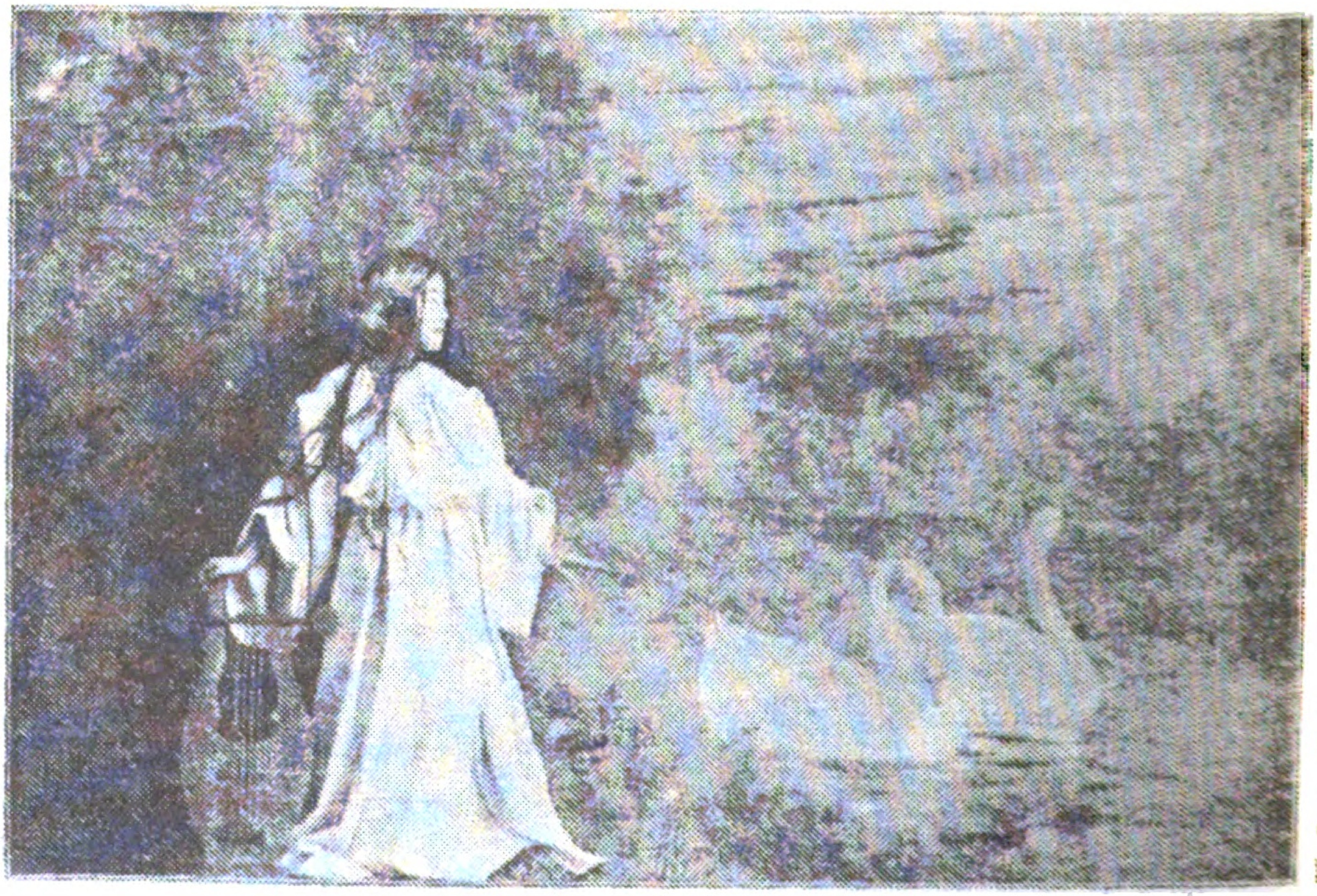
大日本教育會長 辻新次君
●理學博士 坪井正五郎君
●醫學博士 石黑碩吉君
男爵 南部忠男君
●藥學博士 長井長義君
●醫學博士 中濱東一郎君
醫學士 栗本庸勝君
●海軍中佐 小笠原長生君
醫學士 村松秋三君
●醫學博士 隈川宗雄君
●醫學博士 栗本東明君
●醫學士 山田識三君
●醫學士 山田弘倫君
●醫學士 山根正次君
岡山 山川春二君
●醫學士 丸茂文良君
●衛生試驗所技手 丸山県四郎君
●ドクトル 松山陽太郎君
●ドクトル 小此木信六郎君
●盲啞學校長 小西信八君
廣島 小泉[illegible]造君
●醫學士 古川榮君
●東京 布施正臨君
●衛生局長 後藤新平君
●元東京大學教授 エ、ベルツ君
●醫學士 中野榮君
●文部書記官 寺田勇吉君
子爵 秋元興朝君
●前軍醫總監 足立寛君
●ドクトル 新井吉方君
ドクトル 宮十川游君
高崎醫會長 土谷全次君
●產科婦人科 水原[illegible]君
●ドクトル 久保田誠麿君

●醫學博士 佐々木政吉君
●醫學士 淺田[illegible]決君
●醫學博士 朝倉文三君
●ドクトル 朝山茂六君
高崎 秋山聰太郎君
●醫學博士 佐藤三吉君
●醫學士 櫻井郁二郎君
醫學士 佐藤恒久君
●ドクトル 佐伯理一郎君
●醫學博士 榊順次郎君
醫學士 榊保三郎君
●醫學士 櫻井悦次郎君
●醫學博士 樋淵說次君
●醫學士 北村[illegible]道君
●ドクトル 北川乙二郎君
●醫學博士 木下正中君
●醫學士 北島小大郎君
●醫學博士 北里柴三郎君
醫學博士 三浦守治君
●醫學博士 三浦謹之助君
●小兒科專門 宮本仲君
●理學博士 箕作佳吉君
●醫學博士 三島通良君
●醫學博士 三宅秀君
●醫學博士 三輪信太郎君
伯爵 土方久元君
●醫學士 島村俊君
●醫學博士 弘田長君
●ドクトル 須田卓爾君
●醫學士 木村德衛君
●醫學博士 森林太郎君
醫學士 [illegible]三男三君
●醫學士 波多野篤君
●醫學博士 呉秀三君
醫學士 [illegible]瀬[illegible]一君

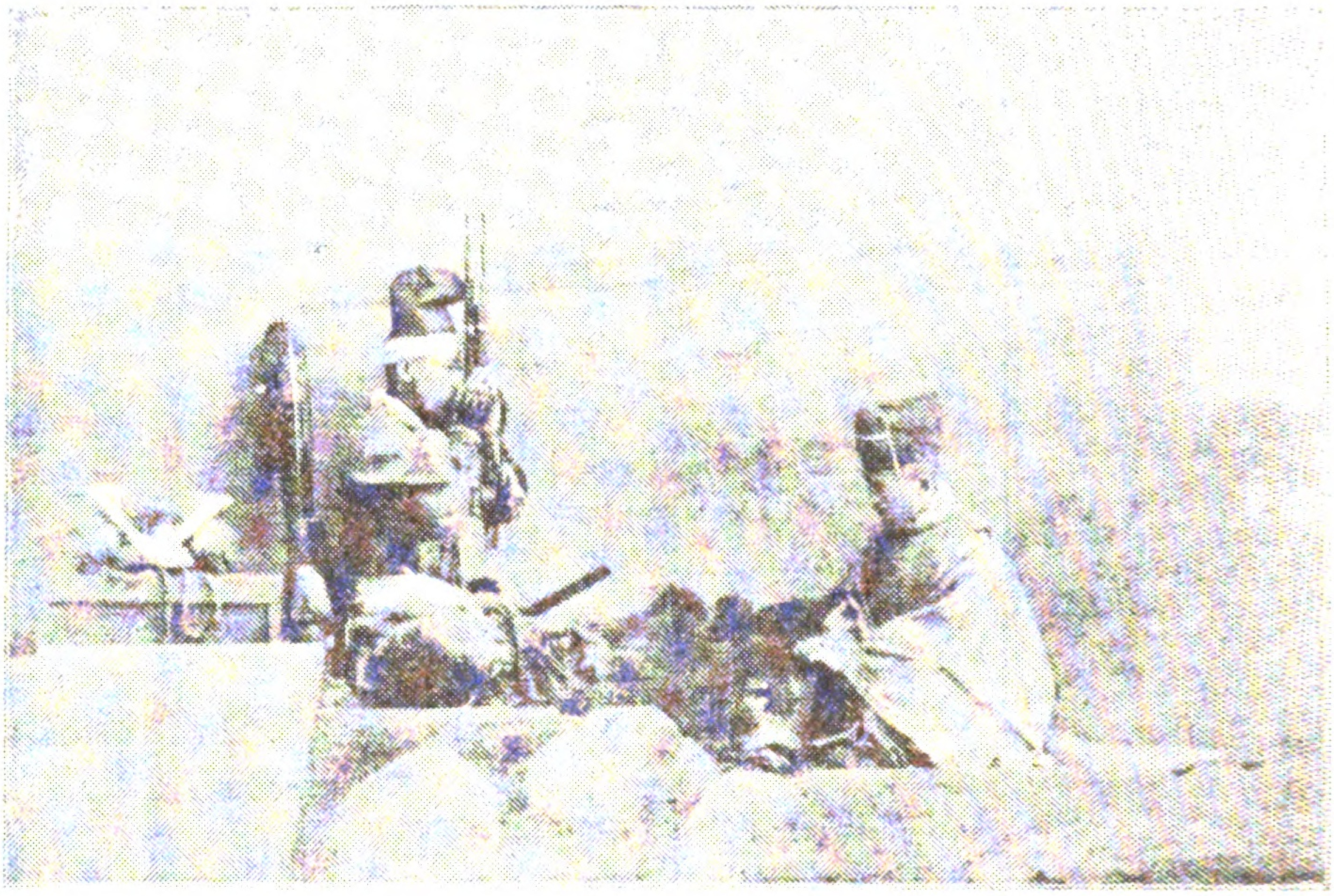
[illegible]活人畫　鴨　が　淵　（其一）



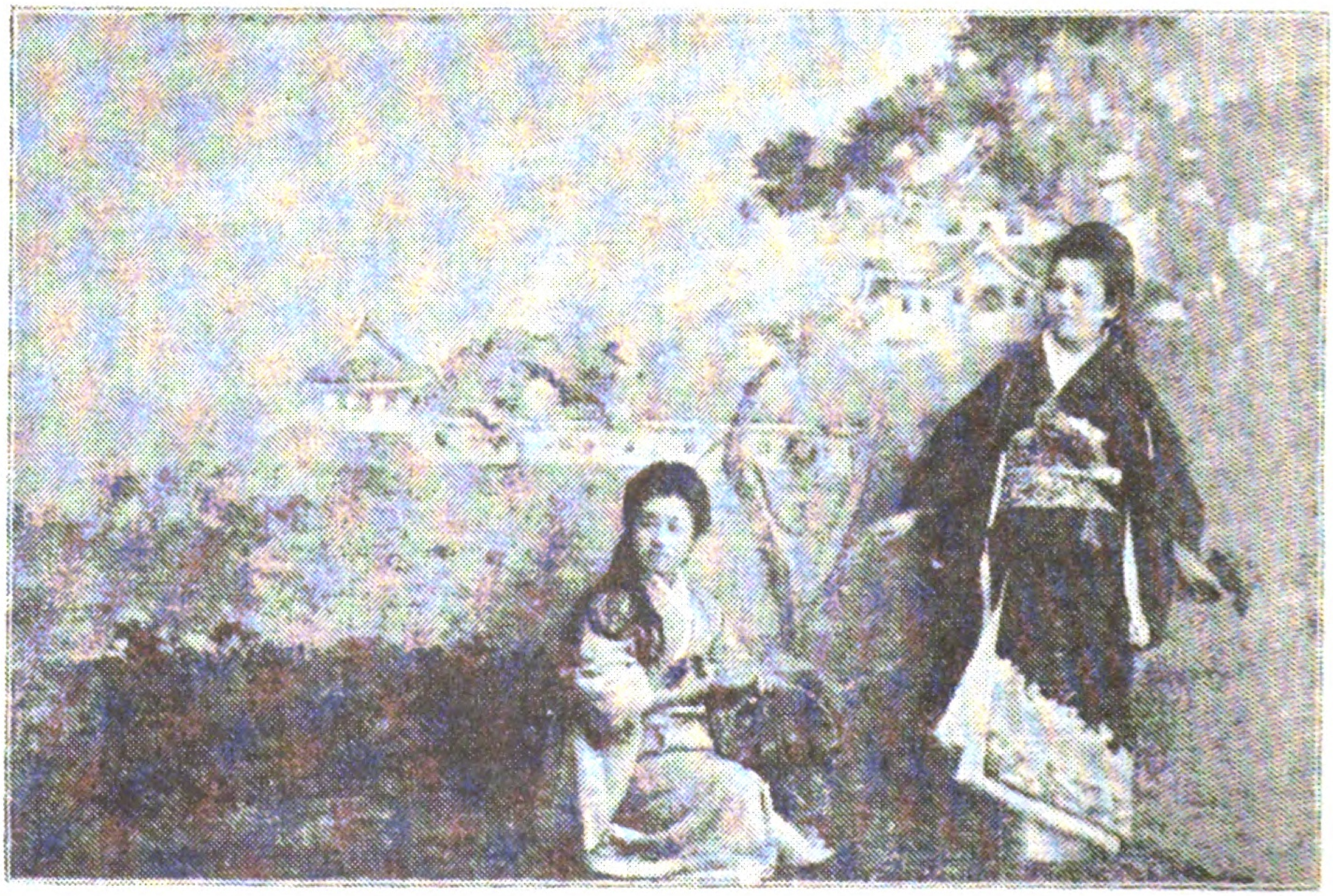
仝　上　ミューズ詩神　（其二）



新潟支會協賛高校會員素人演藝　足柄山の月（其一）



仝　上　軍國婦人（其二）



名家演壇

家庭と黴菌（前號の續）

醫學博士　遠山椿吉君述
佃事務所速記

●今度は飯釜、是れも台所道具の一つである、飯を炊く方法は却て私よりも貴君方の方が御委しいのであるから、唯だそれを私が說明するだけのことである、此釜は一種特別な高壓力の釜でありまして、アレと同じやうな仕掛けの釜は西洋にも在るのです、處で私共の望むのは此釜をお備へになる際に、アレと同樣な釜をもッと備へて戴きたい、それは何を焚くかと云ふと消毒用にするのです、箸てある御茶碗である御碗である布巾である、さう云ふ物を煮る其釜を別に御備へになることを希望する、台所を見ますと罐があッてそれに多く銅壺が附いて居る、是は湯を沸すには如何にも便利でありますけれども、あの湯の中に品物を入れて煮る譯には行かぬやうな仕掛けに出來て居る、此銅壺に代へるに釜がほしい、兎も角も吾々の命を取扱ふ台所に消毒用の釜の無いのは如何にも遺憾であります、面倒はそれだけ面倒になりますけれども、今日の儘では健康を害し、太甚しきは傳染病に罹る虞がある、それを思へば少しの面倒位は厭ふべきでない、二つ以上釜があれば一つは道具を煮る釜に御使ひになッたが宜からうと思ひます、それから飯釜に付て單に學問上のお話で面白くもありませぬが聽いて戴きたいのは、此飯釜の如きは日本に於てえらい發明である、所が日本人は謙遜をするのであるが自分が發明しても吹聽しなかッた、西洋の人は吹聽好きで無闇に吹聽する、飯釜は御案内の通り實に重い蓋が附いて居る、あれだけの蓋が附いて居ッて釜の溫度が沸湯點の百度以上になるも尙ほ旨く御飯が出來ぬと云ふと、蓋の上にもッ

と宜いものを載せる、さうすると益々溫度が高くなッて旨い御飯が出來る、西洋ではパピンと言ふ人が發明した釜がある、全く同樣の仕掛けですがそれを麗々と發明者の名を付けて吹聽して居る、然るに日本では立派な釜があるけれどもオサンドン氏の釜とも誰氏の式とも名がないから發明者が知れて居らない、ケ樣なる道具を用ゐて物を煮ると大抵の微菌は死ぬです、大抵の微菌は攝氏六七十度の溫度で死ぬのです、それでパピン氏の釜が日本の飯釜なれば愈強い微菌でも微菌でも死ぬです、又普通の弱い微菌はぬるい六七十度の溫で死ぬるから英吉利のチンダール、獨逸のコッホ抔と云ふ大學者が、微菌と云ふものは必ずしも百度の溫度を用ゐないでも死ぬと云ふことを發明した、是は破天荒の大發明として歷史に掲げてある、然るに此低い溫度の消毒法は日本では酒屋が疾くの昔發明して居る即ち酒の腐るのを防ぐ爲めに火を入れる、是は聞く所に據ると酒をどん〳〵煮るのでは無いさうて微溫い溫度で暖めるのださうです、それを西洋では低温間隔殺菌法抔と唱へて麗々しく吹聽して居る、台所でも此消毒法は色々の食物抔に應用したいと思ひます。

次に蒸籠です、蒸籠と云ふものは蒸氣で以て物を蒸す道具で日本では之を消毒には餘り使はぬで、西洋では矢張り是れを消毒道具に用ゐて居る、日本では赤飯を蒸すとか或は餅を搗く時分に糯を蒸す事に用ゐて居りますが、蒸籠は消毒裝置の立派なものでありまして、是れで以て煮ては工合の惡いものを消毒することが出來るのです、其形は必ずしも四角のものに限らない、下に湯を沸して上に蒸氣が騰がればそれで蒸籠の役をする、歐羅巴ではどうかと云ふと、コッホ氏が數年の研究に依て發明した所の消毒用器、それが日本の蒸籠であるのです、また餘事に渉りますけれども、ペトリウ氏の皿と言ッて蓋の附きの御皿がある、それが西洋では發明を貴び名譽を重んじて名を附てある位ですのに、日本では立派な蒸籠抔も發明者の名がない、どうか日本の蒸籠は立

派なものであるから是とは盛に消毒用に遣いたいと思ひます、それから昨今は冷へた御飯を暖める爲めに銅て拵へた卵なりの道具が出來て居る、それは矢張り下に湯が這入ッて眞ン中は揚ケ子になッてさうして穴が明いて居ッて湯氣の上がるやうに出來て居る、構造は蒸籠と變ッたことは無い、詰りア、云ふ形の物を御用ゐになれば充分に消毒が出來るのであります。

次には貯藏、是はどうと言ッて極まッた道具は日本の台所には無いのですけれども、物を貯藏する方法としては詰り消毒法に依らなければ貯へることは固より出來ない、即ち食べる物を貯へると云ふことは、全く消毒の力に倚らなければならぬ、現に夏の中、朝炊いた御飯を夕迄置くと直ぐに匂ひがして粘ると云ふ譯で、御肴でも其通り今日煮たものを三日も四日も其儘にして置けば腐ッて仕舞ふ、それは詰り黴菌が生ずるからである、それを豫防するには消毒を實行しなければならぬ、それはどうしてするかと云ふことは、近頃貴君方は學校其他女學教育の向きで割烹と云ふことを能く御研究なされて居るのであるから、私は唯だ其理窟だけをお話して跡は割烹專門家に研究して戴きたい、割烹と云ふと安い物を旨く拵へるとか、或は可成滋養に富んで消化し易く拵へるとか云ふことと許りではなく、一面には消毒、貯藏等のことを充分研究する必要があると思ふのです、吾々は專門としての材料だけを唯だ差出すからして、其材料を御採りになッて貯藏する爲めの消毒と云ふことを充分に研究して戴きたいと思ふのです、例へば肉汁なら肉汁を一旦消毒をして蓋をして置くと、幾日立つても決して腐る筈のものでは無い、現に罐詰を御覧なさい、其手際善く出來たものならば幾年貯藏しても腐らない、それは魚の一切れ、野菜の煮た一皿でも何でも一旦消毒して適當に蓋をして置けば決して腐ることは無い、是は黴菌が無いからである、例へば牛乳一合を朝取ッて煮る、即ち殺菌消毒をするけれども其半分を召上がッて、跡半分は

取ッて置く、其取ッて置く方の分は既に一旦壜の口を開けたのであるから空氣から微菌が這入る、それを取扱ふ人の手が觸りますから又微菌が這入る、それだから跡の半分は腐るのである、若しも三遍に使ふならば、最初三つの壜に御分けになッて消毒して御使ひになれば仕舞まで無菌ですから腐る氣遣ひは無いのです、罐詰のやうなものであれば蓋の所に穴を開けて煮る、さうすると湯氣が出る、そこを直ぐビシヤリと塞ぐ、之が充分完全に消毒が出來て居れば何年經ッても腐る憂ひは無い、然るに是は今の日本の台所の道具ではチヨッと出來ない、今蓋をして蒸し又は煮ても冷めた後には外の空氣はドン〳〵押込む、それでは可けない、それで壜の如き細口のものならば綿の栓を差すと宜いのです、さうすれば外から空氣が押込んでも綿を通ッた空氣と云ふものは決して微菌を含んで居らぬ、微菌と云ふものは綿を透すことか出來ない、又ガーゼの如きあんな目の荒いものでも二三枚重ねれば決して潜ることは出來ない、微菌と云ふものは意氣地が無くて細い所を通れない性質を有ッて居る、之は軍さの時の鐵條網を張るよりも尚ほ微菌に取ッては障碍になる、吾々の肺臟の中に這入る空氣も同じ理窟で微菌が這入ッて行かない、それで肺臟の中には奇麗な空氣が這入ッて行く、それから砂で以て水を漉すと云ふことも同じく微菌は無くなる、砂の一粒よりも微菌の一粒は非常に小さい、肉眼では見えない程の砂でも微菌の何百倍もあるのです、けれども其間をば微菌は通れない、丁度綿の穴を通れないのと同じことです、ですから罎に肉汁なり乳汁を一杯入れて煮立ッて綿で栓をして置く、さうすると醒めるに從て中の空氣が縮まッて外から空氣が押し込んで行きますけれども、綿を通しては微菌は這入られない、それだから中の肉汁や乳汁は何時迄取ッて置ても差閊ない、けれども斯う云ふ事は其遣り方が多少あろから其積りで少し熟練をなさらなければ可けない。

牛乳を貯藏しまするに煮れば固より宜いのでありま

すが、煮ると言ッても百度位の熱即ち玉子が充分に堅まる程の溫度で煮ると消化が惡くなり味が變る、それで黴菌を無くす爲めに七十度位の溫度で煮ると消化が惡くならず消毒もそれで充分に出來る、斯樣な事と云ふものは口で言ふたのは理窟になりますが、實際に御遣りになると分る、唯だ私の申すことが一度で以て其通り出來ぬからと申して嘘と極められますと私は迷惑しますから、實際やッて御慣れになることが必要であります、百度の熱で以て煮た乳と云ふものは前申す通りですから弱い子供杯には宜くない、又お腹を惡くして居る子供には煮た乳よりも却て生乳の方が宜いことがある、去ればと言ッて黴菌の這入ッて居る生ま乳は呑ませたくないと云ふならば、即ち低溫殺菌法を用ゐなければなりません、併し其煮方や何かは委しく申上げ兼ねますから、尚ほ小兒用の乳の取扱方に付ては小兒科の醫者に就て御聞きになれば充分に御分りになると思ひます。

次には飲食物であります、罐詰干物等は固より消毒を施して貯藏したものですから、是は充分に消毒が出來て居れば限り無く腐るものではないのですが、外の方法で消毒貯藏するのは化學的消毒法と申して藥を以て消毒をするのです、先刻は石炭酸とか昇汞とか云ふもの許り申上げましたが、其外に砂糖、鹽、亞爾加保兒と云ふやうなものも皆矢張り藥です、さうして其力も中々強い、是れで以て食物を貯藏する、即ち鹽漬、味噌漬の如き若し此消毒劑が適當に這入ッて居りますれば腐ることは無いのです、鹽の爲めに腐らぬと云ふものは、全く鹽は一種の消毒藥でありまして、それが爲めに黴菌の蕃殖を止めて仕舞ふからである、それから砂糖漬、佃煮、燒酎漬、亞爾加保兒漬杯も皆同じことであります。

又食物の中で注意を要することは、酸味を有ッて居るものは黴菌を殺す力が強い、殊にペストであるとか虎列剌であるとか云ふものに對しては酸味は非常な力を有ッて居る、所で日本の食物の中には酸味の性質のものは第一酢で其外酒です、日本の酒は固よ

り西洋の酒でも酸性を有ッて居るのです、それから先刻も申した醬油或は味噌、何れも酸性のもので、それだから之を料理の際に適當に用ゐると黴菌を殺すだけの功を奏する、虎列剌病の流行する際杯に生ま物を食べては可かぬと云ふのは、詰り生ま物は黴菌が殺されて居らぬから可かぬと云ふのでありますが、併し殺菌の心得があッて都合好く酢を用ゐましたならば、之で以て充分に消毒が出來るのであります、尤も今取寄せた品物に酢を掛けて直ぐ食べると云ふやうなことは殺菌の時間が無いからそれは可けない、けれども適當に之を用ゐますれば慥かに消毒の力はあります、それかれ料理材料の主なるものは即ち水ですが、菜とか肉とか其外牛乳であるとか云ふやうな總て台所に持運ばれまする所のものが、時々に傳染病を媒介することがある、之は主に不良の水を使ふからである、日本では各府縣共に腸窒扶斯と云ふものが殆ど恒病見たいになッて年が年中流行して困難をして居るのです、是は實は六ヶしい問題でありますけれども、斯う云ふ例が澤山あるです、殊に東京に於きまして昨年の春以來の窒扶斯流行の跡を詳ねて能く取調べますると、台所に持運ばれた所の野菜、肉類から傳染したやうに見える、なぜならば窒扶斯とか赤痢とか云ふやうな凡て食物から來る傳染病は、水から來るのが相當である、然るに東京の現今の水は水道の水であッて立派なものである、此水のことは後に申しますが、或家庭に於ては飲料水は勿論のこと、風呂の水から雜巾掛けの水に至る迄總て立派な水道の水を用ゐて居るに拘らず、其家庭に遠慮會釋なく窒扶斯が這入ッたことがある、其原因を調べて見ると矢張り八百屋と魚屋が傳染病原を持運んで居るのです、貴君方の御家族はどうであッたか、昨年は近年に無い大流行であッたのです、窒扶斯でありますから世間では騷ぎませぬけれども、他の病氣であッたならば隨分騷々しかッたに違ひない、明治三十二年以來改良水道が漸々殖えて殆んど行渡ッて居るに拘らず窒扶斯が流行ッたの

は、八百屋、魚屋が臺所に持運んだものである、それで段々聞きますると、八百屋、魚屋と云ふものは餘儀ない場合には水道を使ふけれども、左もなければ水道を使はない、何ぜならば水道の水は野菜物や魚に毒だ、斯う云ふ話である、其毒だと云ふことは取扱ひに悪いと云ふことであらうと思ふ、けれども一つは習慣であらうと思ひます、親爺がそんな事を言ッたから次の代の奴も矢張りそんな事を言ふて居るのだらうと思ひます、それから又水道の水を掛けると魚が弱い、現に刺身の洗ひを拵へるに水道の水では可かぬ、井戸水でなければ可かぬ、斯う云ふのです、それで魚屋、八百屋を調べると多くは井戸水を使ッて居る、深川區の如きは元とは水の不自由な所は只今では却て幸福で餘儀なく水道を使ッて殆んど全部行渡ッて居るけれども、他の區では水道を使はない處がまだ／＼ある、それですから東京では改良水道が行渡ッたとは申條、今日の如くまだ井戸水を使ッて居る間は、傳染病殊に窒扶斯の如き病原を撲滅することは思ひも寄らぬのです、衛生上水と云ふものはどう云ふ必要があると云ふことは、時間がありませぬから略して置きますが、此水の中には黴菌が澤山居る、其黴菌の數をチョッと申せば、通常一センムメートル立方の水、　一センチメートル立方の水と云ふのは、三分三厘四方の一つの桝を拵へてそれに一杯水を汲んだのが即ち一センチメートル立方の水である、其中に黴菌が幾らあると申すのです、所で舊水道と云ふのは昔は多摩川上水、神田上水、千川上水とありましたが、今でも本郷の一部分即ち岩崎家とか或は前田家とか御屋敷の中、それから森川町邊にまだ在る、それで能く仰ッしやるのです、それは飲みはしない撒水にして置く、是は千川上水に限らない井戸を使ッて居る人もさう申します、又山の手で以て井戸の水を使ッて居る人は水道の水には蛭が居ッて可かぬ、矢張り井戸の水が良いと言はれる、それに向ッて如何なる意味で良いと仰ッしやるかと詰問すると、井戸の水は冬は暖かで夏

は冷めたい、さうしてコップに汲んで見ると玉の如く奇麗だ、之が良い水だと云ふ實に簡便至極な試驗法ですが、さう云ふ事で以て良い惡いを言ふのは今時の時代と支那朝鮮計りだと思ひの外です、現今東京市の新水道の水と云ふものは日々水源地の工場に於て中々嚴しい仕掛けを以て砂漉にして黴菌を含まぬことを確めて市内に送るのです、畏くも　陛下も召上がる、それであるから是は決して疎かに取扱ふべき筈のものでは無い、又數十万の同胞の命に係ることですから、隨分嚴重な取扱ひをして居る、其上日々で嚴重な試驗をして保險附きの清淨な水なのです、其試驗の結果井戸の水と較べて見れば非常な違ひです、井戸水は玉の如く奇麗だと言はれるが中々玉の如くでは無い滓の如く不潔なんです、其證據を申上げて見ます、先刻私は唯だ目で見た計りで奇麗だと言ふのは支那人朝鮮人だと申しましたが、本統に學理上の尺度を用ゐて寸法を取ッて見て、是れならば良いとか惡いとか奇麗だとか穢いとか云ふのでなければ今日は流行らぬです、それでどれ程井戸の水は穢くて水道の水は奇麗であるかを申上げると御分りになると思ひます、舊水道の水は一立方センチメートルの中に黴菌の數が八千百三十四ある、それから井戸の水、東京にはまだ數万の井戸がある、其内で慥かに其井戸の水を飲んで居ると云ふ部分を調べて見ると黴菌が四千三百九十一あるのです、流石に日本橋の如きは井戸が三つしかありませぬ、深川區は水に困ッて居りますから今日は殆ど井戸は無くなりましたが、跡の區には大概井戸がある、私は此井戸を使ッて居るのを見て何時でも野蠻の遺物だと惡口を言ふのです、玉の如く奇麗だと言ッて井戸を潰さんで置て明かに其水を飲んで居ることの確かなもの計りが四千三百ある、此井戸の水の中には今の一立方センチメートル中には黴菌の數が右の如く四千餘ある、それなら川の水はどうか、吾々が今日飲んで居る上水の砂漉をしませぬ以前の川の水は、唯今の一立方センチメートルで千三百です、さうする

と舊水道の水の中の黴菌の數は八千餘て、堀井戸が四千餘てあッて、川の水は千三百しかない、是は其筈である、何ぜならば井戸の水は溜ッて居る、川の水は野原か何かを通ッて來る、井戸の周りには便所や芥溜があッて其所から黴菌が這入るから、どうしても井戸の水に黴菌の多いのは當然です、然らば今日の水道はどうかと申すに黴菌の數が以上の數は只た一二回の試驗で偶然見たと言ふ樣な事ではない孰れも三ヶ年間數十百回の試驗の結果の平均です、それですから理窟の上に於て奇麗と云ふことは、迚も井戸の水と水道の水とではお話にならぬ、是は雲泥の違ひよりもモッと大きい違ひです。

元とに立返ッて臺所の事を申上げますると、唯今申上げた所に依て井戸水がそれ程必要のもので無い許りでなく、恐るべきものであると云ふことが御分りになッたらうと思ひます、それでどうかして八百屋、魚屋に改良水道を使用して貰ひたいのです、現に昨年の春から窒扶斯が非常に流行するから私の所では八百屋、魚屋にお前の所では水はどうかと尋ねましたら多くは井戸水を使ッて居る、大抵は斷りまして成るたけ改良水道を使ッて居る八百屋、魚屋から品物を取る工夫を致して居ります、八百屋、魚屋に黴菌を含まぬ所の材料を臺所に持込ませるやうにするのは、完全に衞生が行はれた上のことでありませうけれども、家庭衞生の上に於て外の點は隅から隅迄行屆いても、其點が不注意でありますると、其方からして黴菌を持込まれると云ふことを呉々も申上げて置きたい、其外家庭に就て色々申上げる事もまだございますけれども、大分長くなりますから今日は是迄に致して置きます。



出征軍隊の防寒被服並に現戰役に關係ある地理に就て

陸軍歩兵中佐　堀内文次郎君述
仲事務所員速記

（速記者曰　講演者は講演前、露國を首め英、佛、獨等各國の防寒具を聽衆の面前に陳列し然る後講演せられたるを速記したるものなれば讀者其心して讀まれむ事を希ふ）

私は此間或御馳走の席で鳩山さん其他から捕虜にされまして、日中廣告杯を御出しになられましたから、今日はどうしても來にやならぬことになッて、松山に送られる代りに此處へ收容されましてまことに困りました、所で何も御耳を汚すやうなこともございませぬ、併し此處にございます此防寒具を御覽下さいまし、此中の大部分は露西亞のです、皆一々札が附いて居りますから、どうぞ御覽下さい、即ち我れに對して居る敵は斯う云ふものを着て居る、之に對して吾々の同胞はどれ程の物を着なければならぬかと云ふことを是れと比較して御考へを願ひたい、それと同時に衞生上溫帶地方の者の想像以上の注意を要すると云ふことも、之を御覽になッて御感じを願ひたいのであります、チョッと想像が出來ませぬ、此靴は無論上に穿くのでありまして、露西亞の防寒靴の小さいのださうです、歩哨兵が夜立ッて居るのに此を穿いて居るのです、歩哨兵や何かゝ之位のものを穿かなければ到底立ッて居ることは出來ぬさうであります、それ等を以て寒さがどれ位のものであるかと云ふことを御想像を願ひます、それから又是は靴の上に穿くのであります、當り前の靴下抔を穿きまして其上にまた穿いて居ります、馭者とか何とか云ふやうな者は必ず之れを穿いて居ります、それから是等は皆靴下です、それから手袋も一つては可けませぬ、それで當り前の手袋を嵌めまして其上に持ッて行ッて毛の附いたやつを嵌める、當り前に何もせない時には必ず之を嵌めて居るのです、さうして愈々戰爭にでも出ます時分には此上の

やつだけを取るのです、尤も是の中には英吉利の抔も交ッて居りますけれども、要するに其位にしなければ可けないと云ふことは先づ是れで御分りになりませう、それから靴下でございますが、是は蒙古で出來ます、靴下が出來るのは蒙古でありませぬが此毛が皆蒙古で出來るのであります、此上に尚ほ今のやうな物を穿いてそれでやらねば可けませぬ、是れて一番能く分ります、皆さんが恤兵品抔を御出しになるのに、チヨッとスコッチ抔で御編になッても斯んな物よりもモッと厚く無ければ可かぬと云ふことを御考へを願ひたいのです、所が日本には斯う云ふ材料がありませぬ、露西亞の方では段々蒙古から取るからある、それで皆さんは成るべく早く蒙古邊りに行ッて之を取ッて來ることを願ひます、實業家の方の御方にも私は此事をお話を致して居る、貴女方の御仲間でカラピンに行ッて居られた方がありますか、彼處に行きまするとドン／＼斯う云ふものが出來ます、それから是は英吉利の帽子でありますけれども、矢張り北清邊りで之を被ッて居ります、之を被りまして耳を掩ふのです、それからこの前の所が非常に必要なんです、之が鼻の上迄行かなければ可けない、今日私は急いだ爲忘れて參りましたけれども、北清に居る支那人は之を被ッて居ります、少し暖かい時には開くしてありますが、朝晚寒い時分には兩方の切れを下げて鼻の上迄行くやうに出來て居ります、是は實際必要なんです、知らずに居ると鼻が取れて仕舞ひます（大笑）役所迄取寄せて置きながら今日持ッて來るのを忘れて甚だ殘念でした、日本に來て居る支那人でも被ッて居るのがあります、日本あたりでは鼻を掩ふ必要はありませぬけれども彼處では大變必要であります、それで皆さんが帽子でも御贈りになるのならば、鼻の上迄來るのを御贈りを願ひたい、それから是れも皆さんは御承知がありますまいから御覽に入れやうと思ふて忘れて來ましたが、此間新聞にも出て居りましたが、英吉利公使附のヒユームと云ふ人の夫人抔が、帽子の下に被る

頭巾を御自分等で編まれて吾々に向ッて澤山寄贈されました、今度御參考の爲めに御贈りしませうが、それは唯だスコッチのやうな毛で出來て居ッて、ズッと袋に被ッて仕舞ッて目だけが出る、さうして其上に帽子を被るのです、さう云ふやうな物を英吉利邊りの人は北の方の寒い經驗がありますから作ッて居ります、それを大變に作ッて贈られました、日本人からはあゝいふ恤兵品はまだ出て居らぬです、それは譯がありませぬ丁度腹掛のやうに編んで目の所だけが出るのです、英吉利公使の夫人抔は態々本國から毛糸を取寄せられて自身に編んで居られます。要するに精神上の力とそれから物質上の力との衛生上に及ぼす限界です、言換へれば則ち自分の氣力で押通せる限界と、それからどうしても着物なり毛類なり或は食物なり、さう云ふものに依て防がなければならない限界と、それから地形の關係と云ふこととをチョッと御考へを願ひたいのです、其精神上の力と物質上の力との關係と申しますのは、例へば日本抔では我慢で押通せるのです、隨分不動尊あたりに行ッて見ますると寒詣りとか云ふて單物一枚で駈けて居りませう、あれ等は五圓札か何かを拾ふ積りで駈けて居るのかも知れぬ、或は來年の春は大いに儲けたいと云ふ心から出るのかも知れぬ、或は本統の信心から出るのかも知れぬ、兎に角あれは精神の力て押通して居るのです、寒中あれで行ッて居るのです、日本なら大概何處でもあれが出來るかも知れませぬ、けれども北海道では出來ますまい、それから滿洲邊りに行ッたならば裸詣りは到底出來ませぬ、裸詣りの出來る程度は津輕海峽邊りから南と、それから釜山邊りで無ければ可けまいと思ひます、それで釜山と津輕海峽邊り迄は精神上の力で押通すことが出來る、即ち精神上の力で勝ち得るのであるが、それから北の方に行きまするとどうしても物質上の力を借りなければならぬ、一例を言ふと斯う云ふやうなことです、日本では斯んな防寒具は要らぬ、肌着一枚で行ける、斯う言ふて居られるのです、けれ

ども吾々の同胞が行ッて居ります西伯利亞邊りでは到底それでは行けません、どうしても物質上の力に依て衛生上の注意をしなければ、唯だ我慢だけでは行けないのであります、其一例を言ひますると、或所で日本人は寒さの爲に烈しい害を蒙ることを知りませぬから少し位寒くッても我慢をしてやッて居る、知らずに居ると支那人がやッて來て、今に鼻や耳が取れますと注意した、さうすると日本人はそんな馬鹿なことは無い、此位の寒さで取れはしないと威張ッて居ッた、それは多分芝罘だッたと思ひますが、果して一週間かそこらで耳も鼻も傷んで仕舞ッたのであります(大笑)是は實際であります、さう云ふやうな譯でありますから滿洲邊りに行きましては是非とも物質上の力を借りなければ可けないのであります、衛生上に及ぼす物質上の力と精神上の力とは其地域に依て差が付いて行くのであります、日本あたりでは風邪でも引掛けると水でも浴びろと云ふやうな有樣で、精神上の力で押通せるかも知れぬ、けれども滿洲邊りでは水でも浴びると直に氷になッて仕舞ふ、第一水を浴びたくも浴びる水が無い、さう云ふやうな譯でありますからして、能く土地の事情を考へて見て今吾々の同胞の行ッて居る處ではどれ位の衛生上の注意をしなければならぬか、精神上ではどういふ覺悟がいるか、物質上ではどう云ふ物が無ければ可けないかと云ふことの御考へを願ひたいのであります、さうするとそれが色々な恤兵品とか何とかに現はれて、出征軍隊の後援を爲すに適するものが自然とそこから考へ出されて行くやうになります、どうか衛生上からして出征軍隊の防寒に適する被服の工夫せられあることを吾々の商賈からは是非希望する譯でございます。

今申上げたのは衛生上に及ぼす精神上の力と物質上の力との關係でございますが、もう一つは其生立ッた所の國の氣候からして衛生上に如何なる注意を要するか、それは委しく言へば例へば九州に生まれた者は防寒の上に於てどう云ふ注意を要するか、それ

から青森とか函館とか云ふ處に生まれた者はどう云ふ注意を要するかと云ふことであります、是は私が昨年北清で實驗したことでありますが、一昨年の暮から昨年の春に掛けて天津の方へ出て居る兵は九州から出て居ります、所が九州邊りの者は零點以下の寒さは知らない、攝氏の十度か二十度位のことしか知らない、天津邊りは零點以下十五度位になッて居まして風も何も吹かない日は丸て風はありませぬのです、其事をチョッと申上げますが、滿洲も雪は少くないのです、雪の澤山降る處はまだ暖かい處なんです、雪の降るのは朝鮮から此方でありましてまだ暖かい、雪も何も無い處は皆凍ッて仕舞ふのです、それて滿洲邊りはもう雲はありませぬ、チョッと見た所では恰も日本の三月頃の原野のやうに見えます、地面は眞ッ黑に出て居り太陽は極く平穩に光ッて居る、チョッと目て見た所では非常に好い天氣て風も何も無い、暖かくて宜いと云ふやうに感ぜられるのです、所が寒暖計で見ると零點以下十五度位になッて居る、それて九州邊りの暖かい處に居る者は零點以下十五度位のことは知りませぬから、日本の三月頃の春の良い氣候の原野を考へて、斯う云ふやうに風も無し、斯う云ふやうに太陽も實に穩和に光ッて居るからして、襦袢一つで宜いだらう、フランネルのシャツも要らぬと云ふやうな感じが起ッて居る、それだから防寒具を用ゐると云ふこともなければ、或は又手の出て居る所抔を擦ッて居るとか何とか云ふやうな注意は些ッともしません、それてすから夜、番兵に立ッて居ッても初めの内は感じますけれども、其内段々と本統の寒いことを知らなくなる、ナニ是はそんなに寒くないのだと云ふやうに感じて居る、それて三十分か一時間立ッて居ると覺えが無くなッて仕舞ふ、身體は痲痺し足抔も凍傷病に罹ッて倒れ掛ッて來ても知らないで居る、さう云ふ譯てあるから暖かい處に生まれた人は防寒に對する注意が必要のことであると思ひます、北の方の寒い處に生まれた人は始めから能く分ります、私等も信州

て寒い處に生まれたのですから、此頃でもモウ寒中と同じ物を着て仕舞ふ、北の方の國の人はもう十月頃になると寒中と同じ支度をして仕舞ふ、それ等が衛生上に及ぼす自然の教育である、それで寒いことを知ッて居りますから直ぐに防禦策を採る、所が九州邊りの人はさう云ふことを知らぬから、身體が凍る迄暖かい方の習慣で押して行く、それですから耳や鼻の取れる者が比較上多い、現に天津北京邊りで九州の兵が非常に病氣が多かッた、それから私が着物を脱がして見ると紀州ネル二枚位着て居る、お前それで寒くないかと云ふと、寒くないやうですと言ッて居る、決して寒くない譯は無いので、モウさう云ふ風に分らなくなッて仕舞ふ、それだから暖かい所に生まれた人は自分の子供の教育上に於ても、寒い方に行ッたならばどう云ふ注意をしなければならぬかと云ふことを研究するのが必要だらうと思ひます、又衛生學の方から言ひましても、自分の生まれた土地と反對の方面に於ける衛生上の注意を時々研究して置くと云ふことは大變必要のことだらうと思ひます、もう一つ面白い事があります、天津から北京に行きます時に日本の女が一緒に汽車に乗ッて行ッたのです、それは丁度矢張り冬でありまして零點以下四度か五度位であッたらうと思ひます、支那の女は身體に一杯巻附けた上に尚毛布抔を着て居る、御承知の通り支那の女は下の方も袴のやうなズボンのやうなものを穿いて居ります、日本の女で恐らく穿いて居られる人はないでせう、是非穿かなければ可けないと言ふけれども中々穿かない、日本では我儘も言ッて居られる、どうもゴワ〳〵して可けないとか或はお臀が太くなッて可けないとか何とか言ッて居られる、所が彼方へ行くとゴワ〳〵もお臀が太くなるも何も言ッて居られない、それで天津から北京に行く時分に矢張りさう云ふ物を穿かなければ可けないと言ッたけれども、どうしても穿かれないと云ふて穿かずに行ッた人がありますが、それで餘程其人を庇蔭ッて行くのに困難をしました、眠んで居

る時分には成るたけ毛布でゞも包んでやるやうにして漸く連れて行ッたことがあります、北の方の支那人はそんなズボン下も何も穿かないで歩けるものでは無いと思ふて居ますから、何とも思はないのですけれども、日本の人はそれを穿くのが變だと思ふて居るのであります、是は詰り生まれた土地の氣候の關係からさう云ふ風に衛生上に及ぼす習慣が違ッて行くのであります、西洋の女抔も首から何から一杯卷附けて居ッて、日本の人の目から見ると可笑しいやうに思はれる、殊に露西亞邊りの人はあれで無ければどうしても外に出られないのです、それだから日本で可笑しいと思ふのが彼方では當り前なのであります、それ等も地形と衛生上に及ぼす注意の關係だらうと思ひます、此處に朝鮮邊りの雪の圖がございますから之を後で御覽下さい、それから尙ほ滿洲の氣候の圖がございます、是は私の方で調べたやつを電報新聞に呉れてやッたのでありますが、御覽になる御方は後とて御覽を願ひます、今吾々の同胞の行つて居る處の氣候は、一ヶ月の平均溫度が攝氏の零點以下十五度であります、さう云ふ所ではどう云ふ衛生をしなければならないか、其衛生をするに就てはどう云ふ物質を要するかと云ふやうなことゝはどうか、御考へを願ひたいのであります、東京あたりでは一番寒い時でも零點以下四度位になッたことは無いだらうと思ひますが、今日吾々の同胞の行ッて居ります處の氣候は、今日私が出掛けに受取りました手紙に據ると、もう氷は一日溶けない、それから攝氏の零點以下五六度である、寒風肌を裂いて居ると、斯う云ふことが書いてあります、零點以下五六度ではまだ暖かいのであります、もう十度になりますると大變に違ひますが、五六度ではまだ滿洲邊りでは樂であります、それでも今から十日程前に五六度でありますから、今日では十度内外に行ッて居りませう、營口邊りも舟の出入は止まッて居ります、多分二十五日から止まッたと思ひます。

それから今の戰役に關係のある地理のことをチョッ

と申上げます、露西亞の波羅的艦隊は一方は地中海を通りまして今は紅海に這入ッて居ります、一方は地中海の入口から分れて喜望峯に向ッて此邊（地圖を指示さる、以下傚之）迄來て居ります、一方は西弗利加の西岸の眞ン中あたり迄來て居ります、一部分は蘇士を通ッて今此處の紅海に這入ッて居ります、今に此喜望峰の方のと蘇士の方のとが出まして非律賓の方に行きまして、或は一部分は新嘉坡の方を通りますか、兎に角此濠太利の此附近を通ッて旅順には行かれますまい、其時分にはどうしても旅順は落ちて居りますから、それから此方に參つて北海道の群島、宗谷海峡を通ッて浦潮斯徳に這入りますか、或は此處等で戰爭でもして臺灣を取ると云ふやうなことをするかも分りませぬ、さうして此邊か何處かに根據を構へて此邊を暴廻りますかそれは分りませぬが、兎に角今紅海とそれから喜望峰に向ッて波羅的艦隊は來掛ッて居ります、此地理の關係をもう少し精しくお話したいのでございますが、もう時間もありませぬから後とで御覽になるのならば御覽下さい、甚だ詰らぬ事を申しまして皆さんの御耳を穢しました。

（終）

寄書

醫學に於ける石油の應用

醫學士　竹中成憲君寄送

●起●原●

石油は炭水素化合物にして地質學上は單性岩の一種なり其生成原因につきては有機説及び無機説の二學説あり前説に據れば動物（魚其他の）遺骸地中に埋沒し上より壓せられ下より熱せらるゝに因て生ず恰も動物脂に四氣壓を加へ三百度以上の熱を加ふれば石油と等しき物質を作り得るを見ても明なりと」後説に據れば地球生成の其當時他の無機體と同じく諸元

素の反應に因て生成せしものなりと説く也

◎歴　史

伊藤東涯著輶軒小錄に左の事見ゆ

草生水(くさうづ)。火井の事

「越後に地より油の湧き出づる所ありと云ふ、又火の出る所ありとは昔より人々の言ひ傳る事なり、近年越後の諸生二三輩來り學ぶ、其中清田順發と云ふ醫生、詳に物語れるとあり、亦樋口十郎兵衛正しく其所へ行き、目擊の由にて圖解説を持ち來り、其委曲を聞く事を得たり、先越後の柴田と云ふは、今は新發田と云ふ、溝口侯代々傳來の邑地なり、城下より七八里わきに、蒲原郡新津と云ふ所あり其屬邑にからめきと云ふ村あり、文字は柄目木と書く、その村の東南十五町ばかりに小山あり、其山に油井ありて、水底より水に混りて油湧き出づ其勢甚猛烈也、土人此を湧壺と云ふ、其水、是を「くさうづ」と云ふ、文字には草水とも書き、又草生水とも書く、昔は其水地上へふきあぐると三尺ばかりなり、見る者土塊或は石などを投ずるに依りて、水底浮き塞がるにや、今は僅に一二尺はかりわき上るのみ、其井のわたり三丈餘、深五丈ばかりも有り、まはりに五六丈ばかりの柱をめぐらし立て横に木を貫き、竹數百本を束ねて、牆の如くして此を閉み、其内に萱を束ね網として其わたり二丈ばかり石油其上に溢れ出づ土人藁穗を束ね箒となし油を汲みとる全く水氣なし、其臭甚惡く其色黑くして漆の如し、火を點ずれば光明常の油と異ならず、價甚廉なり、人其臭を嫌ひて近傍の村落には用ふれども遠方へは至らず、邑の長頁柄茂助と云ふ者世々其利を專にして、税金を城主へ上ぐ、其由來を訪ふに古代より是ありて、何の世に初まるとをしらず、其山の近所半里ばかりの間に、小井三十ばかりあり、皆わたり六七尺深二丈ばかり、何れも油出づ、大抵方三四里の間、田際山畔、或は溪澗の中、多く石油わき出づ何れも濁くして用に中らず土人藁を設し乾し、燈燭の用とす又其西に火井二つあり、其一つは、小松山にあり

其中より火燃え出て材木をやくに依りて石を数多打ち入れて之を塞ぐと云ふ又城の西三里ばかりに油井有り「かくま」と云ふ草ありて蕨に似たり、乾してくみ取ると云へり、此は其詳なる事をしらず扨火井の事は同國にて妙法寺と云ふ所あり一民家の庭より火出づ、其上に石を置く、石の眞中に穴ありて竹の筒の節をぬき挿し入れておけば其中より火出づ常には火出づることとなし、火を用ゐ度しと思ふ時は上より付け木にて、火を呼び出だせば夫よりちよろ〳〵と燃え上り灯燭の用に代ふ、近所の婦女の曹、其所に集りて、紡績夜業を勤むとなり、亦壬子年に柄目木村にも、ふと火井を取り出だすと云へり、此を本草綱目に考ふれば、石腦油と云ふ物なり亦は石油、石漆など異名品々なり』云々

●名　稱●

石油の高尚なる洋語を「ペトロレウム」(ペトル、オレウムをつめて)といふ元羅典語にして「ペトラ」は岩「オレウム」は油なり故に「岩油」と譯して可なり獨逸俗語にては「エルド、エールル」といふ「土油」と云ふ意なり何れにしても岩又は土なれば石油と稱する事當れりと云ふべし獨逸語にても一名「スタイン、エールル」即ち「石油」ともいふ昔の「ペルシヤ」人、「ギリシヤ」人、「ローマ」人等既に之を知り居りて之を「ナフタ」と稱へたり

英語にて「ロック、オイル」(岩油)ともいはざるにあらざるも普通「ケロシーン」といふ

『ケロシーン』(英語)とは石油を精選せるものにして發火點攝氏六十五度(華氏一百七十度)のものなり

重油は『ムラ』にして害虫驅除、燃料等に用ゆ

●産　地●

本邦の石油産地は北海道、臺灣、青森、山形、秋田、新潟、岩手、福嶋、長野、群馬、静岡、鳥取、富山、福井、茨城、兵庫、鹿兒島、山口、嶋根等にして是等は含油層、天然瓦斯及び石油の産出ある地方なり

●應　用●

本稿の目的として醫學に關するものゝみを以下に述べん

予、曾て北越の石油地に遊び坑夫が石油を種々なる疾病に用ゆるを耳にせり例へば彼等怪我を爲すときは先づ石油を以て創口を洗ひ石油を以て繃帶し甚しきは胃病に石油を內服するものあり當時予は之を奇とし其研究を他日に求めん事を期せり

▲疥癬(ひぜん)は例の寄生虫、皮膚內に潜伏して本病を醸すものなるが此虫を殺す爲めに石油を用ゆる事は洋醫の古方なり

▲石油を蒸餾して「石油エーテル」を作る此者は局所痲醉の効あるを以てリウマチスの如き疼痛の場合に外用塗布劑とす

▲近來「イヒチオール」を製造するは人の夙知する所なり

▲**結核症**　に近年石油を賞用するものあり(ベンニングホフ氏一九〇二年十二月バッファロ)即ち外科的結核症に在て手を消毒せむとせば先づ溫湯と石鹼を以て之を洗ひ後に石油を塗るべしと也、氏は結核性關節炎に石油を注入し、創面を洗滌するに石油を用ゐ、石油をガーゼに浸して濕布とし之を創面に貼す、脊椎骨炎(カリエス)の一例に在ては患部の骨片を去り空洞に此石油ガーゼを送入し置きしに一期癒合を爲せりといふ、關節に石油を注入すれば一時は甚しき反應を呈するも一週日にして去ると稱す

前記我國坑夫の民間療法と異ならざるは奇ならずや

▲諸家の說によれば實布的里に罹れる咽頭に石油を塗布し又一食匕合宛石油を數回內服せしむ(亞米利加にては頭部の疼痛あるものに民間藥として石油を使用す)更にパパッチリン氏はウルッブルグ衛生試驗所に於て實布的里桿菌の發育上に關する石油の作用を研究せる成績を報じたり該報告によれば石油の塗布及び內服は實布的里治療に奏効あること事實なり然れども是れ全く石油の殺菌及び發育妨止作用にのみ由るものには非ずといへり

(注意)　使用の際左の事を怠るべからず

石油の臭氣を以て飽滿されたる室に終日動物を置くも又家兎には拾五グラム位存せすも無害なり然

れども皮膚に外用するときは小便中に一種の變體現はれ蛋白質の如き反應を生ずるのみならず遂には實に蛋白質を證明するに到る故に多量を外用するは注意すべき事なり

石油を多量に吸入するときは窒息を來す又多量に内服するときは腸胃の刺戟病狀を呈し遂に虚脱に陷る

故に外用たりとも濫用すべからず又内用には用ゐざるを良とす

(例)此頃民間新聞に左の記事を見たり(三八年一月)

△東京神田千代田町ペンキ職永井寅吉雇人菅井幸次郎(二十八)去る二日不都合ありしを寅吉が知り後來の爲め叱責したるに幸次郎は翌三日の夜同家を飛出し五日の午後に成りて立戻り一昨夜九時頃カンテラに入れたる石油五勺ばかりを服して苦しみ騒ぐを家内の人々聞付けて直ぐ手當をなしたるが哀れや程なく死去したり」云々

▲マラリアの原因は小動物たる事は今や疑ふべからず而して予は空氣及び飲料水に因て其原因動物は吾人の體内に入り得と信ずれども唯一の進入門として蚊(アノフエレス屬、イタリア語「ザンザリ」)の刺傷を稱ふるの說目下勢力を有す之に據れば蚊刺に因り蚊より人體に病原虫を傳ふるものとす故にマラリアを豫防する爲には只蚊を避くれば則ち足るといふ即ち蚊帳の類を窓戶、寢室に用ゆるは勿論、蚊の發生を防遏せざるべからず此目的には蚊の發生すべき水面に油類を注ぎ其卵及子孑(ぼうふら)を殺すなり、油類中「オレーフ油」、「テレビン油」等を用ゆべしといへどもケルシエンバウメル氏に據れば石油を以て最も廉なりとす除虫菊の花を水面に撒布するも効あれども石油ほど確實ならず

「ラルウキチード」と稱する「アニリン色素」あり意譯すれば「幼虫殺劑」との命名なれども水を青色して不可なり

鯉は蚊の幼虫を喰ふがゆゑに鯉を池沼に貯ふるはマラリアの豫防

となるなり金魚亦然り然れども深き池には効なし何となればマラリアを媒介する所の『アノフエレス』と稱する蚊は淺き水に生殖し三尺以上の深き水には發育せざるものなればなり故に淺き池は之を深くすることマラリア豫防上利益なりとす

▲近來石油を應用して眼科用の噴霧器（小杉氏日本眼科學會雜誌八ノ六）及び消毒器を考案せるの人ありこは料用としての應用なり

石油の醫學に於ける目下吾人の智識は大略右の如きもの也　（完）

大家叢談

白屈菜の事付き

●栗本博士談片

先頃の日曜日に栗本博士を牛込なる砂土原町の寓居に訪ひ談白屈菜の事に及びましたが先生は此の藥の事に就ては多くの經驗を持ちて居られ紅葉山人の如きも胃癌を病み先生の治療を受けて痛は大に輕快を覺えた假令快復には至らなんだが此の藥は功能のあるものには相違ありますまい先生の話に白屈菜の製劑は第一に痛みを止め又吐き氣を止める事ができますから從て食物も進むようになり又能く其の發育を妨止するとができるとの事です尙胃癌の初期の事に就て尋ねましたが初期は恰も胃病のようで食物がうまくないと云ふくらいでなか〱素人には分かり兼ねます醫者の方で診察してもまことのとは其の塊が觸るようにならねば分かりませぬ然し又此場合には胃液の中の性分が違て居りますから試檢すれば分ります夫婦や兒童は直接の關係がありますから自然遺傳もするようで西洋の例に因りて見ましても母が乳癌で其の兒が胃癌になつたと云ふためしがいくらもあります又兩親に癌腫があれば小供も又癌腫に罹ることが往々あるのであります

記者はなほ話を續いて酒と胃癌に就て質問しましたが酒は勿論胃を刺戟するものであるから從て胃癌の發生をうながし潜伏したるものも呼び起すようになるのですから酒は嚴禁せねばなりませぬと

記者曰く癌腫の原因は黴菌ですかとの問に此の原因

はまだ確とは分らぬが一種の動物體の樣なものでこの發見とても極近年の事で歐洲では今や將に癌腫會議を開て研究中なるが獨逸内科の大家なるライデンと云へる人は一千九百〇二年即ち一昨年其の原因に就て研究されました是れはヒユーネルアウゲ（雞の目）と云ふもので癌腫細胞中に一種の鳥の目の樣なものがある之れが其の原因であると圖を示して説明されました

傳染の關係に就て

癌腫病は傳染しますかとの問に之れも獨逸の學者が頻りに研究して居りますが今日では傳染の形跡があると云ふことになつて居る必すしも確かにそうとは云はれませぬが不思議な事には地方によりて患者の多い處と少ない處とある獨逸のノルデルネーの海水浴場の邊や其の他の市街にも澤山あると圖を示めして話されましたが之れに依りて見ますと首府のベルリンでも宮城近邊には割合に少なくして下等部落には非常に多い此の原因は或は食物の關係もありましやうが要するに其の原因としては酒、胡椒、唐辛子等を多く用ゆるものに起り易い樣で茶の如きも宜しくない紅葉氏の如きも強い茶が好きで澤山に飲用したとのことであるが之れは病勢をはやめる一つの原因でこの病氣は大概四十才より六十才頃までが一番多く發生する時期で紅葉氏の如きは三十七才に發生しましたのは少し早や過ぎる譯ですが蓋し前の原因が病勢をはやめたものであらう

婦人には子宮癌を病むものが隨分多くありますが之れが治療法は如何との問ひに之れは極初期のことでなければ切開しても無駄です併し切開して一時は快愈しましても復發生を免かれぬものであります

談一轉して脚氣の事に及ぶ

▲脚氣の調査會此度の戰爭に軍隊の脚氣が甚しく流行して普通の病氣よりは其の倍以上もあると云ふことで之れが爲めには充分の研究を要することであるとの說が盛になつて此頃調査會を起し之れには政府の補助を仰ぐと云ふ事で醫海時報に關係ある人々が目

下大に骨折らるゝと云ふとである

原因　之れまで諸大家が夫々研究をしたが何れも其の說もまち〳〵にして一定せす從て其の豫防法も未定と云はなければならぬ然し海軍の方では其の原因が分て居ると云ふ事で海軍の人は確實なるとであると云て居る其の證據には海軍の兵士には麥飯に肉食を專として居つたから其の患者が極めて少ない

陸軍の方ではあまり脚氣患者が多いので終りには乃木大將の命に依つて麥飯にしたと云ふとであるが海軍の方ほど充分ではなかつたろうと思ひます

脚氣病は西洋にはとうであるかと云ふのに露西亞人には脚氣と云ふ病氣がないかと云ふ事だが捕虜に聞けば無しと答ふるも日本人の脚氣と少しも容體が變ざる症狀を訴へて居るものが多くある尙旅順の患者を能く取調べたならば面白き實驗であろうと思ひます

米の原因說　榊博士の說には白米が其の原因を爲すもので白米にして永く蓄へ置くときには一種の黴菌が發生する夫故に玄米を食するときには害がありませぬが白米も舂き立てのを直ぐに食するときは害は無いものとの事である

脚氣も地方によりて發生の多少がある一番少ないのは九州四國及び東北地方で之れは米が能く干て居るからであらう殊に米を乾田に植へ能く干すと見える

東京に脚氣の多いのは米が諸方から白米になつて輸入するので之れは皆日がたつて居るから從て此の毒が發生して脚氣病となるものが多いのであろう小田原には元と脚氣病が無かつたが汽車が開けて遠方から米が入つてきて脚氣の起る樣な時季に達して居る米が輸入して來る其れが爲めに小田原にも又脚氣が起る樣になつたと云ふことだ

右の如く博士は貴重なる日曜の一時間余を記者に與へて懇に說話せられしは深く謝する處なり



姙娠の攝生

此篇は産科專門ドクトル緒方正淸氏の談なりとて大阪の新聞に掲載せるものなるが頗る理解し易く說かれたれば玆に抜萃して其講話を諸氏に紹介せん前略

▲精神感動　姙娠はすべて神經が過敏になるものであるから、精神の感動はその快樂的であると悲哀的であるとを問はず、斷じてこれを避けねばならぬのである、即ち、彼の小說を讀だり、浄瑠璃を聽たり、又は演劇であるとか、講談であるとか、喜怒哀樂の感情を刺戟するやうなものを看たり聽たりするのは、頗る可くないのである、そこで一寸謂ゆる亭主關白の位などゝ勝手な熱を吹て、路花驕柳に戯むるる先生方へ憎まれ口を利くが、平日は兎もあれ、妻の姙娠中は是非その身を愼んで、陋しき情慾の念に打勝ち、造次顛沛の間もとは些と大袈裟だが、妻の精神を刺戟するやうな行爲のなからんことを期せられたいのである、話はトンだ岐路へ外れたが、こゝに殊に姙婦の注意を喚びたいのは、始めて姙娠した婦人は十人が十人まで、百人が百人まで、大變に分娩といふことを大難事かの如く誤想し杞憂することである、成程分娩は女生涯の大事業である、が決して難事ではないのである、適當の智識を以て適法の攝生をとつてゆけば、支那的誇張式ではないが、只その易きを見てまたその難きを知らずといふべきであらう、だから姙婦に接近するものは、分娩は決して恐るべきものでない、容易く出來るものであるといふことを說きゝかせて、よくその心情を慰めてやるのが必要である、從つて、自分が睹たとか、又は人から聞いたとかの難産の話を姙婦に聞せたり、若くは他人の難産の場所へ姙婦を立入らせるなどは、斷じて、々々々、これを避けねばならぬのである

▲運動　さて、姙娠中の攝生法がいろ／＼ある中でも、身體を淸潔にして適度の運動をするといふことは、殊にその要素とも見るべきものである、で、何

日の仕事は餘り身體を動搖したり、極めて力を要したり、腹に力の入ると、即ちキパルなどのヿがない以上は、必ず平日通りこれを行ひ、また天晴れ氣の爽やかな時には、外へ出て新鮮な空氣を呼吸すべきであつて、これは母體にとつて必要のみならず、胎兒にも非常に大切なヿである、若し運動もせず終日床の中に寢てゐるやうなヿをすると、遂には精神が沈鬱したり、食物が進まなかつたり、または夜分眠り惡くなるとかいふやうなヿになる、運動の必要なヿはこれて反證されるではないか、が、唯だ運動として避くべきヿは、山に登るとか、高低の甚だしいところを步行くとか、又は車に乘つて通行するとか、雨風を冒してまでも外出するとか、若くは又た度々階段を昇降するとか身體を曲げたり伸ばしたりするとか、重い物を提げたり擔つたり、馬に乘つたり：：尤も東海姫氏國には馬に乘つて驅廻るやうなお轉婆夫人はないが：：、舞踏したりするやうなヿは、固く／＼禁ぜなければならないのである、斯の如き過激の運動は、子宮に充血を起して遂に流産の原因となるヿがあるのである、それから比較的に害のないのは、航海とか汽車旅行とかで、その道程行路が、甚しく長くない限りは左程恐れ避る必要がないのである

▲房事　妊娠の初期であつても、度を過すとか、疎暴く行ふとかすると、障害を來して遂には流産の不幸を見るヿがあるが、殊に後半期、即ち六月から後は必とこれを避ねばならぬのである、西洋人なんかであると、妊娠後六ヶ月になると夫婦別居するといふ風習があるが、わが邦では八ヶ月または九ヶ月、殊に甚しきは分娩前までも、房事を行のふがある、誠に以ての外の亂暴沙汰ではないか、少しく餘談に渉るやうだが、たしか曲亭馬琴の椿說弓張月にあつたかのやうに思はれるが、伊豆七島邊の未開の民の風習に、妊娠すると直ぐ家人と別居させて、それ等はすべて一定の部落に集めておくといふヿが書いてあつた、これは妊婦をいたわるのではなく、全く分

娩そのものを不潔かの如くに思意する誤想からの所業ではあるが、兎に角別居といふヿは中々恐れ入つた文明的の現象であるとおもふ、で、生活の都合もあるから、歐米若くは彼の島人のやうに別居といふヿは、到底言ふべくして行はれぬヿとしても、成るべくこの精神で、妊娠中の同衾といふヿは第一番に避けて貰ひたいものである、またこの流産を度々する癖のある人は、特に運動および交接を、妊娠二ヶ月乃至四ヶ月といふところで、最も注意して攝生法を守らねばならぬのである

▲清潔　妊娠中はまた清潔法といふヿを、嚴正に守らねばならぬのであつて、部屋を綺麗に掃除したり、空氣の流通をよくしたり、夜着であるとか、衣類であるとか、すべて身體に接觸するものは、度々洗濯して清潔にしなければならぬといふヿは、平生よく心得てゐるんければならぬ事柄である、前項で舉げた彼の寄席とか芝居とかは、多人數が集合するので室内の空氣が非常に濁つてゐるから、この點から見てもよくないので、斯樣なところに長くゐると、眩暈をしたり、または遂に卒倒するやうなヿが出來せないにも限らぬ、さてまた、溫浴は清潔法として必要で、列氏の二十度位ので每日入浴するヿとして、それでまた外陰部は、妊娠中は生殖器からの分泌物が多くて不潔となり易いものだから、一日に一回または二回づゝ、清潔に洗ふといふヿが必要である、若しまた大變に分泌物が多くなつて來た時には、早速醫師の許にいて、相當の治療を受けねばならぬのである、またこの溫浴後には、虛弱な質であると一時間位は靜かに休息を試みねばならぬのであつて、それにまた、脚浴即ち脚湯は必と避けねばならぬもので、また海水浴とか冷水浴とかも、同樣であるといふヿを記憶せねばならぬ

▲衣服　衣服はすべて緩やかで且暖かなヿの必要なのは、敢て妊娠中に限つた譯ではないが、殊に妊婦にはその注意が肝要である、彼の伊達の薄着とか、窮屈な衣類を着るとか、身體をキック縮めるとかは、

呼吸若くは血行を妨げて、母體に障害を來すのみか、胎兒の發育を妨げるやうなことがあるから、その可くないのは言ふ迄もないのであるが、こゝで一寸問題となるのは腹帶である。元來この腹帶なるものは、わが邦では古來の一慣習で、妊娠中の一の儀式のやうになつてゐるのであつて、これを適度にすると甚だよい習慣といはねばならぬのである、一時直譯的に一も歐米、二も歐米と馬鹿に隣の米櫃の麥粒に垂涎した時代には、絕對的に腹帶は惡いものゝやうに言ふたが、それは餘りに極端である、餘りに輕卒である、要はその實行方法によつて利害が分たれるのであつて、決して絕對的に排斥すべきものではないのである、で、この腹帶は、岩田帶、五月帶、或ひは鎭帶などゝ稱へて、昔の式によると、八尺の絹を四つに折つて、それをその夫が妊婦の右の袂から渡すのを、妻が受取つて結ぶといふのであるが、これは只當座の儀式までのことであつて、その後においては別に羽二重を以て腹帶を行つてをつたのである、

現今では多くは產婆に一任してをるが、始めてこれを行なふ時期が、五月目の戌の日といふことは、今も昔も變らずに守つてゐるらしい、それでこの腹帶は、成るべく暖かな且多少伸縮する性質のものが最も適當してをるので、その幅の狹いもので腹部を强く締めるといふことは、胎兒の發育を妨げたり、又は胎兒が下へ下つて來るのを妨げて、大變に有害であるが、若し廣い腹帶を腹一面にあてゝゐる時には、腹部を暖め、且子宮や胎兒の位置を正しく保つて、懸垂腹即ち腹が下の方に垂れてくることを豫防するのみならず、妊婦の運動を容易ならしめる利益があるのである、で、用布は通常はフランネル、麻、木綿などを用ゐてゐるが、これは何れであつても差支はないやうである

▲乳房　今度は方面が變つて乳房であるが、乳は極く暖かにして餘り上から壓迫を加へぬやうに注意し、乳頭の發育を妨げないやうにしなければならぬ、目出たく分娩の曉には直にその乳汁を飲せるとい

ふことは、母たるもの丶第一の義務であるから、成るべく妊娠の間に哺乳に適當するやうに、常に準備的の心掛をもつてゐねばならぬのであるが、平生餘り乳を汚なくしてゐるとか、濕潤させてゐるといふやうなことがあつては、遂には乳が糜爛れたり、或は切れたりするやうなことがある、だから婦人は妊娠八九ケ月頃になつて來たならば、毎日朝晩二回づゝ清水若くは微溫湯で洗つて、若し乳頭が凹んでゐるものは、毎日これを指で摘んで引伸すやうにしてからに、分娩後に哺乳の出來るやうにして置かねばならぬ、又たその皮膚が非常に軟かであるとか、切れ易いとかの婦人は、葡萄酒、燒酎、または火酒などで產前五六週頃から毎日よく洗ふて、皮膚を强壯にして置かぬと、哺乳の刺戟で乳頭が切れて疼痛を起したり、或ひは遂に炎症などを起して、哺乳することが難くなり、補陀翁の歌に、嬰兒のよがる乳房や世の中の惠みの露のはしめなるらむとある、その惠の露を全然いとし兒に與へることの出來ぬ心細い結果を見るとさへあるのである

▲食物　これも日常の習慣に從つてこれまで食なれてゐるものを用ひたら可いのである、併し餘り食べ過ぎるといふことは、勿論宜しくないのであつて、殊に妊娠の後半期となつてからは、深更に物など食つて胃を暴滿させるのは最も可くないのである、併しいかに暴滿はいけないからとて、朝早く起きた時に嘔吐くとか、または嘔吐くのを恐れるとかで、非常に昂進してゐる食慾を無理に抑制するのも、これ亦過ぎたるは及ばざる如しとやら、用心に過ぎてこの結果は甚だ好くないのである、で、妊婦の食物は、餘り有害なものでない限りは、大抵のものは許しても可いのであるが、その最もよいのは、言ふまでもなく滋養分に富むでそして消化れ易く、母體なり胎兒なりの生育を十分ならしめるやうな物である、今まその適當な食物を擧げて見ると、何うしても矢張米飯が一番善く、麥、粟なども別段差支へはなく、麪麭、オートミールの如きも、頗る可である、魚肉で

は、鯛とか、鮃とか、鰈とか、鰤、姜公魚などのやうな淡泊なものは可いが、鰻であるとか、鮪であるとか、鰮であるとか、渾て脂肪の澤山なものや、又は烏賊、章魚、その他鹽魚、干魚などのやうな消化のよくないものは避けねばならぬので、鳥類、獸類の肉でも即ちこの例て、成るべく脂肪の少なく且軟らかなものを擇ぶべきであつて、牛肉の如きも、脂肉のところを避けるやうにせねばならぬのだが、先づ〱食はない方が間違ひがなからう、野菜果物の類は、總體に淡泊だから好いが、蘿蔔、蕪、南瓜、豆、芋などの如く風氣を醸し易いものであるとか、芹、獨活、冬瓜、西瓜などのやうに小便を增すものとか、梅實、橙、柚子、蜜柑などの如く酸味の強いものとかは、澤山食しては不可ないのである、それから胡椒、山椒、又は唐辛子などの如く、餘り香氣の高い刺戟性のものも、固より可くはない、又た餅、團子の類も、一は消化が惡く、一は風氣を醸し易いから、これまた宜しくないとは言ふまでもないのである、また飲料では清水が一番よいのだが、通常の冷水よりも白湯とか麥湯などを用ふる方がよからう、それから強い酒精飲料、例へば燒酎、泡盛、ブランデーであるとか、その外安價な葡萄酒のやうなものとか、茶、珈琲などの濃いものは避けねばならぬが、コヽア、ラムネなどは別段に差支へはないのである、これを要するに食物は、前に述べた通りなるだけ滋養に富んでそして消化し易く、且脂肪分の少ないものを用ひ、尙ほ食なれたものを急に變ぬやうに注意して、そしてよく咀嚼するやうにさへすれば、好いのである

▲便通　妊娠すると多くは便通が惡くなり、便秘をして來るが、若しこれを抛擲して甚くならしめると、遂には子宮の位置を變へたり、骨盤の中に充血を起して流產を來したり、または妊娠中に種々の苦腦症を招くものであるから、よくその便通をつけねばならぬが、それには適度の運動をして、毎朝一杯の清水か若くは牛乳を飲むか、或ひは又よく熟したとこ

ろの無害の果物を食ふやうにすると、通常悪阻があるのであるが、若し如何しても便通がつかないで苦しむといふ場合には、早く醫師のところへいて緩劑なり處置なりを請ふて、排便を促すやうにせねばならぬのである、それから下肢の浮腫といふことがある、總て妊娠の中頃になつて來ると、大きくなつた子宮で腸骨靜脈を壓へつけるから、靜脈の血流が惡くなつて、遂に下肢に浮腫が來るやうなことがある、その外、腎臓炎であるとか、脚氣であるとか、または心臓病などでも同じく浮腫が來るのである、ところが世人は、下肢の浮腫は妊娠中には當然のことのやうに思ふて放任して置くものが多いやうであるが、若しそれが病氣のために來た浮腫であるとすると、等閑に棄ておいたがために漸次重くなつて、遂には救ふことの出來ぬやうな場合に立到ることが、莫きにしもあらぬのである、殊に腎臓炎は大概妊娠中に多いところの病氣であつて、若しそれが甚くなつて來ると、子癇などのやうな恐ろしい病を惹起す虞れがあるのである、然るに世人は前に述た如くこのやうな性質の浮腫をも平氣で經過して、重症に陷つてから泡を食つて醫師の許に駈つけるのであるが、その場合には或ひは胎兒を早く出さなければならぬやうなことになるのが多いのである、だから若し浮腫の來た時は、妊娠中の當然の現象だなどゝいふ俗説に惑はされずに、早くその無害の浮腫か、又は病氣から來たものであるかといふことを、醫師に診斷して貰はねばならぬのである

▲嘔吐　この嘔吐といふものは妊娠の初期によくあるところの一の妊娠の徵候であつて、世人も月經が止まつて惡阻があると、妊娠したものと合點する位のものであるが、これも漸次激しくなつて來ると、遂には全く飲食物を攝取することが出來ないで、甚しきは數十日間何も飲食せないために、非常に衰弱するやうなことがある。けれども只僅かな嘔吐であると、朝寢牀から離れた時に起るものであつて、さういふ場合には、毎朝寢牀の中で牛乳のやうなものを飲ん

で、それから一時間程經つて起きるやうにすると、大抵これを防げるものである、併しその甚くなつて來たものは、これ亦早く醫師に適當の處置を請はぬといふと不測の危險に遭遇することがある、われ〳〵がこの惡阻の甚いものを診察する度に何うしてこんなになるまで棄ておいたかと尋ねると、誰れも彼れも皆一樣に、妊娠中に惡阻のあるのは當然のことであるから放任て置いても差支へなく、時日が經ては自然に癒つて來るものであると思料つて居つたと答へるが、實に大膽千萬な振舞である、かういふ風だから、平氣で十數日または數十日間も食物をたべずに、殆んど骨皮とばかりになつて非常に苦しんでゐるが、これが若し一層甚くなつた時には、遂には精神症狀を起して間違つたことをいふやうになり、到底救ふことの出來ない運命に遭遇するのであるが、若し初めの中に醫師の治療をうけるは、決して經過を妨げたり、又は死亡するやうなことは萬々ないのである

▲小兒分娩の時期　前項では子宮口の開大することを述べたが、これからが眞の分娩の時期である、子宮が開大して羊水を泄した後では、子宮が強く收縮するから、陣痛が殊に激しくなつて、産婦が最も苦痛を感ずるのである、即ちその顔面は赤くなり、流汗淋漓として四肢を震はし、非常に苦惱の狀態に陷いるので、この分娩の苦惱は、毒に青竹を嚙割るといふ位で、なか〳〵甚いものであるが、西洋人に比べると、泣いたり悶えたりすることが少ないのは、これは尤もいゝ習慣であると思ふ、この場合に支那人はヤング〳〵と泣きわめき、西洋人はウェー〳〵と大聲を發して苦みまはり、その騷ぎッたら、それこそ大變なものであつて、夫たる男子も同情の極、殆どその場にゐたゝまらぬ程に煩悶して、果は共に泣き出すものさへある、同情もこれまで極點に達すると寧ろ滑稽な感じもするが、日本の風俗もまた餘り感心したものでないと思ふのは、分娩の際に夫が不在であるといふことも少ない例でなく、それも已み難い所用あつてならば兎も角、分娩の際に男がゐたと

て用には立たぬなどゝ勝手な理窟で、茶屋料理屋でサンザめかして財散んでゐたりするとてある、夫が斯やうな薄情な態度を取るから、例のわが子可愛さから起つた夫婦喧嘩では、あの子を産む際には假一人苦んだのだよなどゝ、水臭い言葉が妻の口から漏れるといふ大世話場になるのである、何うか夫たるものは、その一の義務として、分娩時に對して十分の同情を持ち、成るべくその場にゐるやうにして、妊婦の少しでも心強い感じのするやうに振舞はれたいものである、　思はず話が岐路へ入つたが、この陣痛が强ければ分娩が容易なものといひぜう、尤も産婆の盡力を要するいはこの時であつて、若し小兒が肛門から會陰の方に張出して來る時には、會陰保護術と唱へて、大切にその部を保護してやらぬと、陰門が後方に向つて破裂するのであつて、實に恐るべきことであるが、これにも適切な實例がある、それは産婆がこの術を知らないと、小兒が自然の力で分娩するから、陰門と肛門との間、即ち會陰に大破裂を

起して、その穴から小兒が安產否な難産をするので、畢竟斯の如き婦人は、小野小町の反對に尙一つ餘計な穴を作るのであつて、戯談ぢやない、實に慘酷極まるといはねばならぬのである、それから昔の産婆の取扱つた小兒は、分娩した時に頭が圓くなつてゐて、生れながら佛のやうだなどゝ堅門徒ならぬ人までも、頭部ばかり見てイヤついてゐるが、これは産婆その人が會陰を保護するとを知らないために、母親の陰部を破つて大いなる穴から出たから、自然に頭部が圓い理で、何も左様珍らし氣に悦ふべきとではないのである、ところが近頃の學問および實地を學んだ助産婦は、この會陰保護術を演習してゐるから、成るべく小兒の分娩を徐々にして自然に陰門を擴張せしめ、小兒の頭部も周圍の壓迫を受けてから、細長くなつて分娩するのであるが、これは最も道理に適つてゐるとで、小兒の頭はいかに長くても、分娩後數日を經過すると、自然に圓くなつてくるものである

▲胎盤の娩出時　胎兒を分娩した後で、暫く經つと再び輕い陣痛が起り、次で胎盤即ち謂ゆる後産と名づくるものを排出するのである、で、この胎盤は通常分娩後十五分乃至三十分からして排出するものであつて、二時間位はそのまゝ放置ておいても差支へないのである、それに日本人は胎兒が分娩すると直ぐ後産は何うであるかといふ質問を起すが、これは大きな間違ひであつて、素と〳〵胎盤は胎兒と一所に出て來るものでないゆゑ、餘り早く後産を心配すると、無識な産婆は闇雲でその心を迎へるために、臍帶を牽引して胎盤を急に引出すから、そのために出血して、母體を危險に陷らしめるとがある、この後産は、學問を修めた助産婦であると、容易に娩出さす技術を心得てゐるが、謂ゆる産婆は、その邊の呼吸には通じないから、昔は安産をしても後産で死ぬやうな不幸なことが出來したから、今も矢張それを心配するのであらうが、畢竟無用の心配であつて、却つてその杞憂のために大事を引起すに至ることは上に述たる通りで、自然的に胎盤の剝離するから多量の出血を來して、俗に謂ゆる産後のずる〳〵となつて死ぬのである、要するにこの後産なるものは、胎兒分娩後は子宮の收縮がおこり、即ち後産期の陣痛によつて自然に分娩するものであるから、一二時間はそのまゝに放置つておいていゝので、若し萬々一この時間を過ぎても出ない時にこそ、始めて醫師を迎へて相當な手當を受けて然るべしてある、このとを譬喩言でいふて見ると、丁度古人の和歌にある、急がずば濡れざらましを旅人のあとより霽るゝ野路の村雨と同樣で、急がずにさへをれば自づとはるゝ村雨に、故らに濡れるなどは餘り馬鹿々々しい沙汰であるから、吳々も無智な産婆に向つて早く胎盤の手當を受けぬやうにせねばならぬのである

以上で分娩の理由は解說し盡したから、更に項目を變へて、分娩の經過をお話するとしやう云々



衛生雜話

醫學士　石原喜久太郎

◉あやまれる衛生

題は其の當を得てをらぬかも知りませぬが、ともかくも、衛生を重ずるの結果、却而、間違ッた方に陷ッて、益の乏しいばかりでなく、反對に害を招く事があると云ふ、一二の例に就きましてお話致し度いのであります、其の衛生を大切にする處の精神に於てはよろしいけれども、應用の方が間違ッてゐると云ふ點についてお話申すのであります即ちまづ、

◉乳兒を發育するに、母の乳汁が澤山あッて、そして、佳良の乳汁なるにも拘はらず牛乳を飮ませる事

でありますが、御婦人方がお産の後に、乳汁が自然と出るのは、之は、所謂生理的と云ふので、天然の仕組であッて、今産れた赤坊に其乳を飮ませる爲めに天が與へて呉れたのであッて、夫を飮ませるのは、母子共に身體の爲めになるのであります、唯、産後、母の身體が惡いとか、其乳汁が不足であるとか、よろしくないとか云ふ場合に至りて已むを得ず之を補ふ爲めに牛乳を與ふるのであります、然るに、世間には、往々母體も健全で、佳良なる母乳があり、其分泌も澤山あるにも拘はらず、其母乳をあまり與へずして、反ッて、牛乳を主として與ふる人があります、牛乳も乳兒には滋養分に富んだ養育料ではありますけれども、一般に、母乳に比すれば消化が惡いと申すのは、乳汁が一度、胃の内に入りますと先づ凝固するのでありますが、其の塊は、人乳の方は小さく、牛乳の方は大きいのです、夫が更に消化せらるゝ(溶ける)時には、どーしても初めから塊の小さき方が能く消化され易いのであります、此點でもッて人乳は牛乳よりはよろしいのであります、又一ッ

には、牛乳はどーしても消毒せねばならぬ、自分の家で一度は必ず煮沸消毒を施さねばならぬ、と云ふのは、牛乳には往々結核菌だのなんだの云ふ病毒を含んでゐる事がある、斯樣な。消毒と云ふ面倒をもせねばならぬ、且又、牛乳は絞り取ッてから時間が經てばたつ程、性質も惡くなるのでありますから、種々の點に於て人乳に比しては劣ッてゐるのであります、さればです、よき母乳が澤山出れば、何も態々牛乳を主要として飲ませる必要はありませぬ、此處が即ち、牛乳はよいものであるとのみ考へて、無暗に飲ませると云ふ、間違ッてゐる點であります、尤も母の病氣其他萬一の場合を慮りて平素から副用として少しの牛乳を飲ませるといふ用心家もあります、それならば決して惡くはないのであります次に

◉牛乳を消毒するに當りて、餘り長い時間煮沸する事

てあります、煮沸すれば、種々の病毒は死んでしまうのであると云ふ原理によりて、長く煮沸すればする程消毒が確かであるから、それで牛乳を煮沸するにも充分長い間をかけるといッて、無用にも長く煮る人があるそうです、成程一理あるのですけれども、一方から云へば、餘り長く煮ると云ふと牛乳の方が惡くなる、滋養の方に害がある、夫であるからして、消毒の爲めには一定時間を超へてまで煮るのは、何の益も無い、のみならず、損である、牛乳を消毒するにはパステール氏法と云ッて、煮沸せずに、即ち換言れば攝氏百度に煮ないで、もッと低い溫度（同六十度位）で消毒する法もある程です、是は、病毒は攝氏の六十度でも殺す事が出來るので、そして、牛乳は、此位の溫度で消毒する時には、百度の溫度て消毒するのに比しては、牛乳の性質を變ずる事が少く、味もよく、滋養の爲めにもよろしいのであります、斯樣な次第であるにも拘はらず長く牛乳を煮沸するのは間違ッた仕方であらうと存じます、普通牛乳を煮沸消毒にかけるには、煮へ立つ時間（煮へ

る迄の時間は別です)が五分なればよろしいのです、長くとも十分と超へないがよろしいのです、次に

◉小兒にあまり長く乳汁を飲ませる事てありますが、小兒は生後六七ヶ月を經ちますと、齒が生じて來る、是は何の徵でありましようか、云ふ迄も無く、食物を咀嚼せしむる爲めてあッて、齒が生へて來れば、是より後ちは、あたり前の物を食べよとの自然の示命であります、夫で、小兒が滿一年近くになりますれば、最早、乳の量を減じて徐々に食物を與ふるのがよろしい、そして主が食物で、副が乳、次に乳をやめると云ふ順序がよろしいのであります、其事は詳しく申しませんが、世間には是と反對で、小兒が滿一年以上になッてもやはり牛乳を主とし、多量に與へてそして食物の方を僅かしかやらぬ人があります、牛乳が滋養に富んでゐるからそれでそうするとの考のやうに取れます、けれども是亦やはり間違ッた衛生かと存じます



質疑欄

●●●質問注意 質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御通知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　鎌倉長谷　淺田雅子

問一、虛弱なる小兒には鐵劑を平生飲用せしむるをよしとの事なるが是は何といふ藥をドーいふ分量に調合すればよいのですか又素人が藥屋へ行ッて直に買はれるものですか伺ひます

問二、生れてから六時間たてば牛乳を三倍の水に薄めて飲ましめよと產婆は申します此言に從つて赤兒が腸かたるを起しましたが一體生れてから母の乳の出るまでは(二十四時間位)何も與へずしていゝでしようか御伺ひ申します

一の答　虚弱の小供に鐵劑を飲ませるのは大變いゝ事です是れは沃鐵舍利別を御飲ませなさい素人には多分買りますまいから御醫者に貰うようになさいまし其代りには肝油がよいてしやう初めから肝油がのみにくければ「スコツト乳薬」を御のませなさいコレは飲みにくゝありませんソレは肝油の分量が幾分か少ないのです夫れから段々御ならしになれば純粹の肝油ものまれます醫學博士高橋順太郎の無臭肝油は臭ひもなく消化器を害する事もなく大抵の人に吞まれます吞みにくければ珈琲か香茶の上にたらしグッと飲めば油が先にはスッて跡からコーヒーなり茶がはいりますからなんでもないのてす初めイヤがつても直きになれてしまいます

其外大危險な藥品としては亞砒酸類ホーレル水なども結構てすが是れは一つ間違へば生命にも關係するものですから御醫者に相談せねばなりませぬ

答の二　生れてから母乳の出るまては砂糖水でも飲ましておいて差支ありません牛乳を三倍に薄めると云ふのは普通ですが生れたての子には實驗上濃過ぎる譯てす五倍か六倍位にして御飲ませなさい腸加答兒を起すのは牛乳の中の脂肪球が多過ぎる爲めてす成る丈薄い方がよい本來は生れたてには牛乳はいけませぬ其理由は母乳より脂肪球が大きくて消化の不良を來す恐れがあり升ソコて羊の乳を御飲ませなさい之は稍々母乳に近い日本では餘り羊乳を絞つていませぬが東京道灌山に絞つている所があります直段は少し高いが無臭で極く結構なものです

質問者　淺草　一會員はま子

問　小兒に灸を据えることは宜しき事にや小兒の體罰にて最も功あるものは何にて候や是迄私方にては小兒の體罰は灸を据えることゝなし居り候如何のものにや伺上候

答　小供に御灸を据えることは余り賛成しません若しも据えるなら足の拇指と第二指の股の少し上に御据えなさい害はありません夫れも御勸めは致しませぬが一度位すえて跡はするぞ〳〵と云ふて懲らす

のがよいてしやう其他小兒の體罰として臀べたを叩く人もありますが總じて文明の今日體罰は御止めなさい體罰は加へれば加える程段々ひどくせねば言ふ事をきかぬ様になります夫れよりは教育の仕方でどうでもなります!

質問者　奈良市　イ、ウ、子

問一、痔瘻俗にあな痔と申す病氣は其儘になし措くも別に生命に關する程のものに無之や又該病の療法及び飲食物の心得等御教示下され度候

問二、十年余に亘る淋病にて些の痛みもなく候へども時々微膿液の襯衣に着くことあると尿をする前聊か促迫を覺ゆると局部の感覺過敏にして……是迄局部の注射又は「サックバルサム」服用を爲したるも一時は治りたる様でも暫くして元の如くなり困り居るもの有之該病の根治療法御明示被下度候

一の答　痔瘻と云ふ病氣は痔の中でも余り性質のよくないもので是れには結核性のと單純性との二ッあります單純性の方なれば其の儘にして癒りても生命には關係はありませぬが併し大便が漏ッたりきたない物が這入ますから始終不愉快で困まるのですが結核性になりますと中々捨て丶置く譯には往きませぬ遂には他の臟器にも結核を生じて其爲めに斃れて仕舞ふことが多くあり升されば一日も早く治療を加へねばなりませぬが今日の處では痔瘻の根治療法と云ふものは外科的に之を切り開いて惡い處を取り去るより外に仕方はないのであるが俗間では妙な迷信があつて痔瘻を癒すと其爲めに肺病が起るなど丶言つて醫者が如何に勸めても療治を加へない人がある之は大きな間違で痔瘻を癒した爲めに肺病が起るのではなくて痔瘻のあるものは肺などの結核を患えて居るものか多いからであるから痔瘻に罹つたなら早く癒して置きませぬと爲めに結核病などに罹るようになる併し肺病患者か痔瘻に罹ッたからとて其人の體質によらねばむやみに手荒な療治も出來ないのですから是等の場合には醫師に相談なさいまし

二ノ答　御質問の病氣は慢性の痳疾で後尿道が惡くて痳菌が粘膜の深き部分に潜んで居る爲めに一旦なをッた様でも時候の移り變りや又は酒を飲んだり房事過度烈しき運動などするときには其刺戟の爲めに絶えず再發するので其外確かに攝護腺炎を起して居るに相違ありますまい……とは攝護腺炎の爲めでありましやう

療法としては局部の注射又は「バルサム」の服用などでは到底癒りませぬ今日最近の療法として攝護腺のマッサージ(即ち西洋按摩術)ブージー(尿道に入れる金屬性の棒を挿すことで)其外尿道後部に殺菌藥をさすこと等を行はなければ癒りません之れは專門の醫師でなければいけませぬ田舍のへボ醫者などではだめでしやう今日は泌尿器科の學問は非常に進んで居りますから其の專門に御かゝりなさい昔しから痳疾〳〵と云ふてイッ迄たッても癒らないと訴へるものが非常に多くありますが之れは本統の療治をしなかつた爲めです其の爲めに女の消渇(痳疾)を起したり子宮内腺炎を起したり卵巣炎を起したり膀胱炎を起したりするのであります男の痳病は中々罪深きものでありますから根治する必要かあります序に申上げますが婦人の子宮内膜炎は其原因として今日の處一、手淫と痳疾の結果から起る事となッて居ります中々馬鹿に出來ない病氣で結核ばかりが恐ろしいのではありません是等の病氣は東京なれば先づ大學の皮膚科に診察を乞はるゝがよいです

質問者　青山　一　會員

問一、テレビン油と龍腦とまぜてかゞせると咳の出るのによいと聞きましたが分量はドノ位ッ、です又小兒等に咳嗽の時用ゐていゝですか

問二、日本藥局方單寧酸は消化を助ける藥だと聞きましたが六七才の小供には分量幾クラムづゝ如何なる時に服用せしめて宜しきや食前か食後か又これは他の藥品と衝突する樣な事はありませんか

問三、私の妹婚嫁してより三年許以前より子宮に

故障起り肥滿云々(是れは診察せねば分りません婦人科專門の醫師に御相談なさいまし)

一ノ答、テレベンチン油を嗅ぐと咳嗽の止まることはほんとです三四滴ガアーゼに滴らして御嗅ぎなさい龍腦は別に分量はかまいません併し子供には御よしになる方がよい或は次の處法でテルビンと云ふ藥を飲んでもきゝます

テルビン　二、〇　アルコール　三〇、〇

水　七〇、〇　單舍利別　一〇、〇

右を一日の分量とし五六回に分服なさい尤も咳嗽にもよりますが喘息の咳嗽などならば耳鼻專門の醫者に鼻を見て御もらいなさい鼻の中に鼻茸といふものが出來ていると其刺戟て喘息を起すことがあります之を取ッて貰へば十年の喘息も忽ちにして癒ッた例もあり升

二ノ答、日本藥局方の單寧酸が消化を助ける藥かも知れませぬが夫れよりも單寧酸オレキシンと云ふ藥が現今專ら食慾を助ける藥として用ゐられて居ります六七才の小供の分量は左の處法て食前にお飲ませなさい

タンニン酸オレキシン　〇、〇五　重曹　一、〇

乳糖　一、〇

右三法に分ち一日三回分服此藥は外の藥と衝突することはありません御安心なさいまし

質問者　本鄕會員　池田

問　私娘廿歲になるもの顏色非常に赤く殊に冬季になりては甚だしく誠に見苦しく困り入候何とか療法無之候哉身體は壯健にて便通月經など正しく有之候由若し診察を乞ふには何科の方に願ひてよろしくや伺上候

答　是れ丈けてはよく分りません診察を要します霜燒の樣なものか又は顏の毛細管がひろがッて顏か赤くなりニキビなどがぽつ〱出來る病氣がありますが夫れでしやうか何れとも分りません皮膚科專門の醫者に見ておもらいなさいまし

質問者　栃木　坪山賛成會員

問　單純の寒冒に罹りし時の二三の處方及注意法等は敎示被下度希望いたし候

答　御風をめしましたら「アンチピリ」〇、五を先づ頓服なさい而して暖かい夜具の中にモグッて御出なさい併し「アンチピリン」を飲んで中毒（暗黒色の班點が出來て痛痒かつたり又は口唇がヒク／＼するものなどがありて輕きは自然直るも重きは身體一面に出來るもあつて之れは藥をせねば直らぬあり）を起す人が澤山あり升夫れは今日迄の醫者には氣が付かなかつたのであり升風を引いた爲めにそーいふ者が出來たとばかり思ッて居るのが多い近來大學の皮膚科で調査ますと「アンチピリン」の中毒は澤山あるのですからよく／＼注意して用ゐねばなりませんサレば「アンチピリン」の中毒を起す人は一切之を用ゐないで鹽酸キニーネ〇、五を頓服なさい或は「アンチヘブリン」〇、三位を御飲みになつてもよいのです先づ是等か單純なる寒冒の注意と藥です

質問者　信州　田舍の一會員

問　普通毛生藥にはいかなるものよろしくや調合法御敎示下されたく候かして

答　毛生藥の一二の處法を御敎授しましやう御安くはないのです！

目的は皮膚を刺戟して血液の循環をよくして局部の榮養をよくし毛髮の發生を促すと云ふのですデすから元と／＼根のない處は生えぬことゝ御承知下さい頭にフケが澤山出來て其爲めに毛のぬけるのか澤山あり升か之れはフケの出る病氣です毛の拔ける病氣ではありませんフケの出るのを癒さなければ發生やそうッたッてだめです夫れには下の處法（レゾルチン五、〇クリスリン一〇、〇アルコール一〇〇、〇）之を一日に朝夕二回位筆で頭に御スリ込みなさいソウするとフケの溜るのが癒ッて新しいイ、毛は春の下萠の樣にニヨキ／＼出て參り升勿論男子なら每日婦人でも一日置き或は二日おきに毛髮を洗ふことは必要で石鹼は加里石鹼がよい併し普通の石鹼でも洗わぬよりはよいのです毛髮を洗ふと毛が惡るくなると

云ふ話しは文明の今日御信じなさるな虚言です其外皮に病氣かなくて毛のうすいと云ふのならば下の藥を御用ゐなさい（ザルチル酸三乃至四、〇芫菁丁幾五、〇リチネ油一〇、〇アルコール一〇〇）以上一日一回乃至二回局部に塗布するもよし又は（石炭酸二、〇サリチル酸四、〇ワゼリン四〇、〇ベルガモット油五滴）以上の藥を一日一回毛の薄い處へ御スリ込みなさい其外藥は澤山ありますが要するに理屈は前に申した通りキマッて居りますから生えべきものならば右に示した藥で治るのですから跡は申しませぬ

◉糖尿病の御質問に付鹿兒島一會員の方へ

今月は是非とも木村醫學士の同病に關する講話を出そうと思ひましたが原稿が僅かの事で間に合ひませんでした爲め來月に伸ばすことゝなり御待ち兼の事と存んじますから一寸と書きましやう

糖尿病に罹ッた方は始終運動をして體力が許すなら男は撃劍柔道馬乘などをして酸化作用を盛んにする工風が肝要です夏は山冬は温暖の地に行くことは大層よい是れが爲め一時癒ッたことは屢々ありますか女の方なら女相當の運動をなさい又按摩や植木いじり庭の手入などもよい

此病ひは藥より養生で餘程食物が六ッかしい次に申す禁物は勿論重症者に對するものですが

▲食し得べき物　肉類はドー云ふ形にしても宜い煮た肉でも生の肉でも又魚類、貝類、鮑、蟹、鷄卵、油類、脂肪、バタ、チース、獨活、甘藍、ホウレン草、ミツ葉、小松菜、其他肉エキス、茶、珈琲だとか茶だとか云ふものも砂糖を入れねば差支なし、左程重くないのですと胡桃とか蕪、大根、筍子、蕗、豆腐、油揚等は少し位ひはよろし

▲大禁物　酒類はなんでもいけません、葡萄酒少し位與へる外ビールでも果酒もいけぬ、菓子、菓物の甘いもの、米、麥、稗、玉蜀黍、燕麥、豆類一切、芋類一切、人參、百合、牛蒡、蓮根、慈姑、葱、韮、辛菜、生薑、山葵、甜瓜、南瓜、西瓜、醬油には砂糖や密を入れて賣るとの事ですから非

常に注意を要す
此病氣は服藥よりは食物の注意で癒ッて行く方が多いのです而し癒らぬ病氣ではありませんから御安心なさいまし跡は木村學士の講話で御承知あれよ

質問者　高崎支會々員

問一、二十二歳成婚の女子さして身體に異狀なく月經は毎月末に五日間程これありだん〳〵少しづゝおくれ勝ちにて四五ヶ月も續くうちに一回程休むことがありますか其儘にしておいても差支ありますまいか

問二、また平氣身體壯健の者にても妊娠すれば其一ヶ月位の內月經のとぢた外に身體に異常を生じ何ぞ前兆のかならずあるものですか伺上候

一の答　月經が段々おくれ勝になつて來ると云ふ仰せであり升が之は子宮の內膜に病氣があるのです普通多少前後することはありますけれども絕えず後れて來るは病氣です內膜炎の療治をせねばなりません

二の答、妊娠しても一と月位では別に異常がありませんから分りませんが併し月經が止まれば必らず妊娠とも限りません妊娠しても一度や二度は月經を見ることもあります又病氣の爲めに止まることもあり升然し毎月順番にあつた月經がパッたり二月も三月も止まりて惡阻などが始まるようなら大概妊娠だと考へてよいのです

質問者　山形　阿　部　燕

問一、當十四歳なる女子顏面に痣あり醜くゝ候間取り除く法御敎被下度候

問二、肩腰背中或は手足等いたみ候右僂痲斯の輕便なる治療伺上候

問三、手足等筋違ひしたるに宜しき藥劑御敎示願上候

一の答、顏の痣は取る藥があり升が併し素人にウッカリ話すと却ッて腫れ上ッたりなどして飛んだ迷惑を受けた例がありますから宜しく皮膚科專門醫に治療して御もらいなさい今日では生れつきの赤痣などでも最新療法で注射をして癒すことが出來るように

なりました又青痣とても塗り藥で一時は癒すことか出來ます

二の答　果して僂麻質斯ならば飲み藥もなさらねばならぬ而し素人療治はおよしなさい併し下の處法は果して同病なれば効能があります（ザルチル酸ソーダ二、○苦味丁幾二、○單舍利別一○○水一○○以上一日三回食後に分服なさい

又は（アスピリン一、○乳糖一、○）右一法として朝夕二回に分服するもよいのです局部の痛い處は十プロセントのイヒチオール、アルコール或は新藥としては同じく十プロセントのチゲノール、アルコール又は沃度丁幾を塗るのもよろしいです其他には温浴にはいつて身體を暖ためる事が非常に効があります鹽原熱海に行くことは御勸めします併し硫黄性の御湯はいけません

三の答、筋違ひしたら即足の一部の筋がつまつたら足の親指を上下に動かし揉むがよいのです湯につけることが出來れば尤もよいですソウして跡で第二答の節に申した塗り藥のドレでも塗ッたらよいでしやう

質問者　鹿兒島一會員

問一、私平月經のある初日には毎月きつと下腹が大に痛みてドウも仕樣が無いようですが何にかよき療法はありますまいか伺上升

問二、私友達に寒けだちますと粟粒位の者が首すぢから背のあたりまで發生致し又春の暖氣になりますと何時となしになほります斯くあることが早や七八年ソして是迄お醫者にもかゝりましたのですが同じことです何とか良き藥はありますまいか

一の答　月經のある前に神經を起したり下腹が大にいたんだりすることはよくあることですがドツしても痛みが烈げしくて懲らへられぬときは醫師にたのんで（莫比）の注射又は（莫比○、○一を頓服することゝなさい併し是れは何れも醫師の差圖を受けぬと若し分量でも違うと生命にも關係しますから其御積

りて

二の答　仰せの病氣は痒疹と云ふ病ひです恐らく小供の時から始まつたのでしやうそして大變痒ひものです是は冬出來るのと夏出來るのと二種あり升何れにしてもだん／＼年を取るに從ッて癒ります凡二十歳を超えると大概は癒ります稀には二十七八歳迄續いてあるのもあり升此病氣の本體はマダよくわかつて居りませぬ其療法としては亞砒酸を用ゐ又は局部の痒ゆい處には塗り藥もあり升が何れも劇毒藥ですから醫者に相談なさい分量が間違うと生命に關します兎に角拜見せねば分りません或は御質問は右の病氣と違ひサメ肌のシドイものか何れも皮膚科專門醫の診察を要します

質問者　牛込一會員

問　私方の下婢兩手共に霜燒にて脹れ上り恰もくずれそうて水汁などが出て見苦くもあり氣の毒にもあり何にかよき藥無之候哉

答　仰せの如きひどき霜燒には十プロセントの樟腦ラノリンを一日一回付けて御やんなさい効能があります

質問者　鹿兒島縣一會員

問　私地方には子供が生れますと直より懷ろの腹へ直きに入れ守りを致す習慣にて初めは（オシメ）に包みしまゝに候へ共少し大きくなれば足は兩方に廣げて入れ候下女子守なども同じく右様に致し候が子供の爲め利害如何のものにや御尋ね申上候

答　斯様の習慣は止めるようにした方がよいと思ひます生れ立ては可成安靜にして寢かして置き寒むければ湯たんぽを入れて大切にせねばなりません夫れを生れ直ぐに人の膚に接すると抱いて居るものの起居運動しますから生れたての柔らかき身體にさわつて爲めに脊椎彎曲症でも起こすと大變です殊に兩足などひろげて抱くときは自然脊骨を曲げる様になりますから小供の身體のマダ柔らかい内は成るたけ寢かし置く習慣を付くるときは少し大きくなッて

來ても大變に手のかゝらぬ様になりますから御地の風習は賛成しません

（殘りの御質問は次號に）



●豚の切肉の煮方　かな子

豚の肉の脂肪をとりさりて之を細かくきり四五分位に刻みたる球葱に適宜のバタを加へ肉と共に鍋に入れその葱の薄鳶色になるまで煎り付け麥粉、胡椒、鹽、等をケレイにて溶き、よくかき交ぜて少し許の湯を注し之を鍋に投じ、とろ火にて煮ること三十分乃至四十分間にして用ふべし

中外彙報

●寒冒と實扶垤里亞

此頃寒冒は至る處病勢を逞うしつゝあるが今年のは病性惡く神經系又は消化器を冒し呼吸器をいためる外に耳鼻を烈しく冒し時々聾になり嗅神經を鈍くし物の臭い分らず夫れより咽喉腫れ一見瘰癧の如くなり聲立ずなるなり斯る併發病の爲め病ひの經過によりては生命に危險を及ぼすべしと云ふ殊に老人と小兒は重患に陷る者多ければはやく醫師の診斷を受けるが安心なるべし又小兒の實扶垤里亞も日増に發生を見るに至る小兒を持たるゝ親子方は頗る注意せられたし要するに實扶垤里亞は血精療法に加くものなければ若し此病に犯されしならば時を移さず血清の注射を受けらるべし時期を遷延するときは遂に手後れとなり取りかへしの付かぬことゝなるべきなり

▲凍傷後の壞疽の新療法　此程普通寺病院勤務の某醫師は實驗上凍傷に陷り壞疽に移りしものゝ療法としてカンフル一、〇〇メントール油六滴オレーフ油四〇、〇單軟膏二〇〇、〇以上の軟膏療法を加へしに創況佳良なりしといふ

▲獨國赤十字社の厚意　獨逸帝國赤十字社よりは今

回我傷病兵の治療救護に任ずる爲めプレスラウ大學教授ドクトル、ヘンレー及びドクトル、フイッチ氏並に特別看護婦フオン、ソモギー孃を特派せられ右三氏は十數日前本邦に到着し一旦同國公使館に入りしが既に同國赤十字社の名を以て千駄ケ谷原宿なる同國人モツスレー氏の宅を借り受け其治療の準備に着手し器具器械一切は本國より携帶し來れりといふ篤志の事と云ふべし

▲婦人と齒　婦人は男子に比して齒を患ふる者多きは强ち齒の養生を等閑に付するのみに原因するには非ずして婦人は比較的男子よりも齒を破壞し若しくは病み患ふ時機の多きに基くものなり殊に懷姙以後は齒牙に送る營養分を減殺せられ爲めに齒痛を患ふる者甚だ多し又嬰兒に乳を吞ませ居る間は前者も同じく齒牙の營養を缺き從つて齒を痛むも少からず是等が男子に比して婦人の齒の患者多き一原因なるべし又婦人の義齒に就ても昨今其大部分を占め居るはゴム及びセメント材なるが是は其價の廉なるより需用者多く且つは生活の程度などもありての事なるべけれど義齒の塡充材料としては甚だ不完全のものにてセメントは酸化し易く又ゴムは酸化には堪ゆるも嚙み潰さるゝ患ひありて漸次剝げ出し遂には琺瑯質を露出するに至り延いて齒痛を起すもの少からず義齒の塡充材料としてはアンマル若しくば純金尤も適當なりとす又小兒の齒を患ふる者極めて多く之を米國に比するに日本の家庭にては殆んど小兒として虫齒ならざるは無き程なり是れ主として其の母親たる者の不注意に基くものにして要するに齒の掃除の行屆かざるに因るものにて彼の味噌ツ齒の如きも成長の後ち有害の原因たるものなれど恬として顧みざるは實に歎息すべき至りにして是にても家庭衛生の進まざるを知るべきなりと某齒科ドクトルは語れりと或書に見へたり

▲トランスバルグの日本女醫　昨年露領西比利亞にて太田覺眠氏等と共に幾多の困苦を凌たる醫師市川克太郎及其妻女わか子（女醫）の兩人は其後獨乙より

亞弗利加に行き今はトランスバルク國のコハネブルクと云へる所にて其業を開きしに戰勝の醫師が來りとて大に歡迎しつゝありといふ

▲日本人の身長　萬朝報は此頃日本人はもつと大きくなれぬかと題し極めて簡短にして大きくなる法は成るべく坐らぬ樣にせよ學校生徒の一日の三分一丈でさへ十年間に人間の丈を三分も延す力あれば一日まるで坐らねばグット大きくなるべし今試驗に一日坐らずに夜は足を伸して寢るときと其反對の時とを較ぶれば其身長の第二者は現に詰り居ることを發見すべし日本人と西洋人との身長の差は腰より下にのみ有りて胴より上は大した違ひにあらざれば斷然坐るを腰かけるに改良すべしと說けり

▲英國赤十字社の好意　東京駐在英國公使を經て英國赤十字社より我戰地還送傷病將校下士卒へビスケット數万個を寄贈し去廿三日日英兩國旗を交叉したる馬車十數輛にて東京豫備病院の本院を始め各分院に送付したりと

▲同仁會の活動　同仁會にては會長大隈伯の下に片山、岡田兩博士其事務を主宰し會員數は未だ一萬餘に過ぎざれども既に着手せる各方面の事業は孰れも好結果を收めつゝあるを以て此際大に會員を募集し戰局の發展と共に先づ清韓二國に向つて大活動を試むることに決したり

▲九十九歲の高齡者　兵庫縣川邊郡長尾村の内瀧池村中川光彥とて本年九十九歲になれる高齡者あり同人の父母は三十四年に死亡し現今は妻おやゑ(五十三)娘おみよ(十六)の三人暮しにて最と攫鑠として飲食店を營みつゝあり同人に語りて曰く「私は文化五年三月五日當瀧池村に生れ丁度本年は九十九歲が來れば人間の定命を二度するやうなものです養生ですか別に難しい事はありません朝は午前五時若くば六時に必ず寢所を出で裸身のまゝで井戸側に出で清水で清く洗ひ丁寧に拭き新鮮な空氣を胸一杯呼吸するので夫から全身を日光に晒し樹木なんどを捉まへてウン〳〵力を入れ運動を十五分間計り遣り衣服を着

るのでさうすると温かで寒中でも風邪などに冒さることはありませんモウ習慣で斯うせねば其日は一日氣分が惡いのです着衣してから食事を終り暫時靜座して休憩するチッと氣を休めて置いてから仕事を始め夕刻は身体の關節と手足を洗ひ又樹木を對手に朝の如く運動をしてから夕食を始めます夫から夜中は決して物事をかんがへず足を伸して安眠するのです一日の食糧は五合位として過度の食事をしたことはありません又間食は決して致しません八十年來毎日斯うやるのが自然攝生法に叶つて居るのだと信じて居りますまあお蔭で今日迄藥一服も飲んだことはないのです云々

▲昨年中の傳染病　内務省衛生局の取調に據れば昨年全國赤痢病患者總數は二万二千七百七十二人にして同腸窒扶斯數一万九千六百三十五人實布垤利亞患者一万二千六百四十九人虎列拉病ペストは患者僅かに各一名なりしと云ふ倘一昨年に比較すれば赤痢病に於て約八十名實扶垤利亞患者に於て約一千名を減じたるも腸窒扶斯數に於ては稍々增加の傾向ありとなり

▲旅順の赤痢と天然痘　此程旅順より上海に來れる一旅客の言によれば港内に碇泊せる三隻の病院船中にありし二千に近き病傷兵は上陸の上野戰病院に入院せしめられたるが露人及清人の同地にあるものにて赤痢或は天然痘に罹るもの頗る多しと

▲盤谷のペスト撲滅す　盤谷に於けるペスト病は二月十一日以來新患者なき爲め該病は撲滅したる旨再び告布せられたる由

▲新男爵　蘭疇翁松本順氏は開明醫人の祖とも云ふべきは人の知る處なり又高木兼寛氏は脚氣病其他に盡したる勳功少からずとて今回兩氏に授爵ありし故なりといふ

▲深川區に於けるペスト　客月十九日有菌鼠の發見をなしたる以來既に二十二頭に及び倘續々發見の虞あるより東京市及警視廳にては嚴重に取締りつゝあるは既報の如くなるが陸軍省にては波多野檢疫官を

同區に派出して市及區の消毒方法を檢視し且越中島なる陸軍糧秣廠四方には亞鉛塀を以て圍ひ石垣には目塗りをなして消毒方法を施行されつゝあるが尚同省にては各軍隊に布達し軍人の同區内に出入するを嚴禁したりといふ尚有菌鼠竄出の恐れありとて當局者は鋭意豫防に盡力中なりと

新刊書

醫學士石原喜久太郎校閲得業士首藤環編

▲新撰衛生生理問答　博文館發行　定價二十錢

問答體を以て簡短明瞭に記述したるものなり苟も人類の健康を保持し疾病を未發に防がんと欲せば斯學の研究忽かせにすべからざるなり本書の如きは衛生生理學の研究者及受驗者の備忘に尤も適したる好冊子なり

▲日本の家庭　月刊雜誌として書肆同文館より發刊すと要は我國善美の家風を基礎とし時勢の進歩に應じ趣味あるものとし大に家庭教育に力を盡すべしと云ふ定價は一部八錢なりと

霜やけのたゞれ病をふせぐには
　まづたべものにきを付よ人

國民も嬉しかるらむ四方山の
　仇鼠はれし年の始めは

中澤ひさい

大日本婦人衛生會記事

本會總會

三月四日第一土曜日午后一時半より神田區一ツ橋通女子職業學校内に於て總會を開く此日や朝來の雨天殊に寒氣も強く風も加はりしかば總會に比し來會者も少かりしが定時に至り醫學士寺田豐作君には耳の話、ドクトル日高昇君には傳染性眼病に就き講話せられ終りて役員改撰事務及會計報告あり右終り茶菓の接待ありて散會せり役員には田村さよ子、山本多穗子、三浦敏子、高木かう子、鳩山春子諸氏にして濱尾夫人には寒冒の爲め欠席せられたり

役員改撰の結果は從前の通りなり

●傷病者帽子の寄附

一帽子十三個　千葉縣千葉郡睦村桑橋　立石まさ子
一同　十五個　本郷區看護婦一同總代（第二回）　大久保光子
　　　　　　　常外有志者　後藤よね子
一金一圓　麴町區五番町十四番地　加藤常子
一金一圓　仝　加藤醫局一同
　　　　　仝　上　同女中一同

●本會事務の概略

昨三十七年三月より本年三月に至る一ヶ年本會に於て講話せられし諸氏は三宅博士、橋本學士、島田三郎、中濱博士、小笠原中佐、土肥博士、堀内中佐、醫學士栗本庸勝、山根醫學士、米國女醫ミスリード、能勢醫學士、下田歌子女史、遠山博士、木村醫學士、岡田博士、寺田醫學士、日高ドクトル諸氏にして一ヶ年の總入會數は實に三百七十八人内本會申込の分百十九名支會申込二百五十九名にして退會も從つて其數少からずと云へども要するに本會は元來質素着實の會合なるが故に比較的戰時の影響を蒙らざるは幸なりといふべし本會に於ては昨年十一月役員の決議により赤十字社澁谷分院なる傷病者に帽子寄送の事を圖り本會基金中より金二百圓を支出して同院に寄附し尚會員諸氏の義送に依頼して二百六十個の帽子を寄送するに至りたり又仝年十一月十九日には本年度に於ける本會講師を富士見軒に招待して慰勞會を開きたり

今や支會は七ヶ所にして高崎及米澤支會の如きは會員の増加著るしく其他の支會も益々好况を呈するは何れも役員諸氏盡力の然らしむる處なりと云へども獨り千葉支會の如きは其成立古しと云へども會務常に振はずして今日は遂に支會の體面を維持すること能はざらんとするは頗る遺憾とする處なり全地に於ける責任ある役員諸姉に於て充分挽回策を講ぜられんことを冀望する處なり今本支會々員數を其多寡により配列すれば左の如し

會名	終身	特別	通常	賛成	合計
東京	四九	一五〇	五三六	一二一	八五六
地方	一三	一八	四四〇	三三	五〇四
高崎支會	二	八	二三八	一四	二六二
新潟支會	三	五八	一二八	一二	二〇一

米澤支會	〇	四	一一一	一八	一三三
茨城支會	一	〇	九九	一四	一一四
山形支會	〇	一五	五六	一七	八八
宇都宮支會	〇	一	七二	五	七八
千葉支會	〇	〇	一六	〇	一六
合計	六八	二五四	一、六九六	二三四	二、二五二

大日本婦人衛生會

本會收支決算報告 自明治三十七年四月 至仝 三十八年二月

收入

一金四千八百三十圓七十一錢五厘

内譯

金二千三百三拾五圓六拾錢五厘　前年越高
金貳千四百六拾六圓八拾六錢　會費
金拾三圓四十錢　寄附懇親會費 廣告料
金拾四圓八拾五錢　預金利子

支出

一金二千五百三十五圓十六錢九厘

内譯

金四百八圓六拾七錢　報酬雜給
金六拾五圓九拾壹錢　備品費
金千百四拾六圓九拾七錢　印刷費
金貳拾壹圓〇四錢　筆墨紙費
金拾四圓七十五錢九厘　消耗品
金百四拾六圓四拾八錢　通信運搬費
金百三拾三圓貳拾三錢五厘　集會費
金四百貳圓四拾錢五厘　雜費
金貳百圓　寄附

收支差引

一金二千二百九十五圓五十四錢五厘

内譯

金貳千圓　三井銀行預金
金百六十四圓九十九錢　東京貯蓄銀行預金
金六拾圓　借家敷金
金七拾四圓九十五錢六厘　手元有高

高崎支會報告

初例會景況

一月廿二日(日曜日)初會を赤坂町恩德寺に開く式場は軍國多事の際とて質素を旨とし正午十二時左の次第により開會す

開會の辭　副會長　星野きよ子
唱歌(君ケ代)一同唱和オルガン　三橋幹事
會祝辭　幹事　相川すか子

式終るや來賓陸軍三等軍醫正高崎分院長高橋春庵君

登壇して先づ本日の盛會を祝し亟で當婦人衞生會々員が軍隊に對する實況を述べ其熱誠を賞賛せり第一席九條大尉登壇して當十五聯隊が出征以來の苦戰高崎山占領の詳細なる講話あり次に餘興として茶番「活人畫」あり看護婦の歌頗る出來宜しく會員の賞賛を博せり第二席本多大尉は日露戰爭の起原より旅順開城に至るまでの實況を是又詳細に演說せられしが兩氏の講話は目下適切の問題にして殊に當所聯隊の戰況に關するが故に會員は一喜一憂悲壯感奮の念に堪へざるもの丶如くなりき此日や前日來の降雪にて道路泥濘に係らず戰況談の爲め會員の出席するもの非常に多く廣堂も爲めに狹きを覺ゆる程にて午后四時散會せしが極めて盛會なりしといふ

來賓　三橋亦彪、乾宗太郎、大山武八郎、小笠原鎰次郎、湯淺勝太郎、關龜齡の諸氏

出席役員　相川、三橋、相澤、星野、土谷、稲垣、齋藤、鈴木、正木、林、高草木、栗野、馬渡、松木、清水の諸夫人

本多大尉の演說終るや直ちに義勇艦隊に關する簡短の說明あり當婦人衞生會々員の務ふて贊成あらん事を望み紹介の勞を事務所に於てとらんことを述べられしといふ

仝第三十例會

二月十一日(土曜日)午后一時開會幹事相川すか子女史の義勇艦隊に關する熱心なる勸誘談あり第一席關鍋齡君には解剖學(前會の續き)なる胸部、骨格及び筋肉に就き圖畫を示して懇篤に述べられ第二席小林猛造君には入浴上の心得と題し同君専門の眼科なる第一加多留性結膜炎第二膿漏眼第三トラホーム等の眼疾は浴湯より傳染する事多しとて二三の實驗を述べ第三席深町悦雄君には禿頭俗に薬罐坊主と云へる題にて該病の原因傳染の經路及豫防に就き爽快なる辯を振はれたり此日や天氣快晴大祭日なりしかば例になき來會者にて閉會せしは午后四時頃なりき

出席役員　相川、星野、鈴木、稲垣、高草木、齋藤、三橋、清水、松木、相澤の諸夫人

山形支會報告

一月例會

一月二十一日第三土曜日午後二時より當市女子師範學校内に例會を開く會長副會長を初め會員學生の來會者約百餘名先づ齒科醫學士には小兒發育法に就て種々有益なる講話せられ次に中程戰地より歸隊せられたる陸軍大尉永井岩次郎氏の戰地實況談あり滿堂の諸氏熱誠耳を傾く當日は新年初會なれども時節柄凡て諸師の餘興を廢し傷病兵の帽子寄附の件に付和談會を開き四時半散會せりといふ

二月例會

二月十八日午后二時より當市女子師範學校内に例會を開く堀師範學校長、友田、北島の兩醫學士出席せられ左の有益なる講話ありて四時散會せり此日積雪深く寒氣も亦烈しかりし爲め來會者僅かに傍聽生共五十餘名なりき

一齒牙の話　友田保登君
一教育勅語の話　堀　義太郎君

新潟支會報告

仝支會に於ては先々月盛んなる恤兵演技會を開き其收入を舉げて恤兵費に寄附せり本誌口繪にあるは仝支會に於ける活人畫なり尚仝會に於ける收支決算等は既に同會より送付せられしも餘白なきを以て次號に詳細掲示することゝなしぬ

事務所は都合により

新潟市本町通十三番町第三十三番戶中村しけ子方に移轉す

●役員辭任　幹事湯原じゆん、和田くに子兩氏は三月以降役員を辭任せられたり如何の御都合にや今日迄鋭意盡力せられたる熱心を感謝すると同時に尚惜みて餘りあることゝ云ふべし

弔詞

田中宮内大臣夫人の薨去　故田中宮内大臣夫人伊輿

子の方には多年本會評議員の任を負はれ資性溫厚よく公私の事に盡されしが去月以來腎臟炎に惱ませられしが本月に至り病勢俄に革まり去三日遂に薨去あらせられたり玆に本會は

謹みて哀悼の至情を表す

大日本婦人衛生會

●御葬儀　去七日を以て質素に行はせられしが會葬者は各皇族方御名代を初として無慮五千餘名にして本會よりも總代として役員事務所員等何れも會葬せり



●本會入會者

○靜岡海野和歌子紹介

●靜岡市呉服町四丁目十三番地近藤氏方　通常會員　加藤いと子

●仝市西草深町三百六十四　通常會員　矢口喜久代子

●仝市西草深町百四十　通常會員　海野つき子

○事務所申込

●下谷區竹町一番地　通常會員　東くめ子

●深川區仲大工町廿八、鈴木方　通常會員　藤田さだ子

●牛込區納戸町三十二　賛成員　土居忠夫君

○事務所増田氏紹介

●牛込區上宮比町八番地　通常會員　中原敬子

○岡川幹事紹介

●麹町區平河町六丁目二十番地　終身會員　臨原千代子

○千駄谷加藤つる子紹介

●府下豐多摩郡千駄谷村字穩田　通常會員　西澤好子

○長野横内岩子紹介

●麻布區狸穴町十　通常會員　牧野智惠子

●麹町區中六番町十三　通常會員　勅使河原君惠子

○牛込竹上豨子紹介

●牛込區市谷仲ノ町五十六　通常會員　久山千代子

●會員改姓名

●本鄕區立川よね子改メ　小林よね子

●日本橋區安達みつ子改メ　阿野みつ子

●下谷區關口竹子改メ　武藤竹子

●山形支會入會者

○幹事林ちせ子紹介

●山形市　通常會員　鈴木せい子

●仝　通常會員　染谷なか子

○幹事佐藤たみ子紹介

●山形市　通常會員　松澤はつゑ子

○幹事堀しか子紹介

●山形市　通常會員　片山かつ子

○菅井久子紹介

●山形市　通常會員　木内たつの子

●高崎支會入會者

○土谷奈次君紹介

●高崎市柳川町四十八　通常會員　高山はる子

●仝　市宮元町廿一　通常會員　井澤たつ子

○落合きよ子紹介

●仝　市九藏町八十二　通常會員　森木つね子

○藤崎きく子紹介

●仝　市田町　通常會員　吉田たか子

○淸水かね子紹介

●仝　市八島町　通常會員　小森光治子

○鈴木たね子紹介

●仝　市柳川町八十六　通常會員　西脇つみ子

○相澤小松子紹介

●仝　市紺屋町十七　通常會員　長坂たく子

○淸水かね子紹介

●仝　市歌川町　通常會員　淸水梅子

○天利いし子紹介

●仝　市九藏町　通常會員　奥村なか子

○星野きよ子紹介

●仝　市赤坂町　通常會員　椿貫子

○齋藤壽雄君紹介

●前橋市横山町　通常會員　松宮晴子

○久保村てる子紹介

●高崎市旭町日鐵社社宅第十一號　通常會員　池田和歌子

●仝　市田町四十八　通常會員　秋元たよ子

○信澤たき子紹介

●高崎白銀町二　通常會員　岸よし子

●會員改姓名

●深井さゑ子改メ　塚田さゑ子

●中村のぶ子改メ　中村諦々子

●新潟支會入會者

○和田ふく子紹介

●仝市上旭町　通常會員　佐々木かめ子

○田代評議員紹介

●仝市寄居町　●●●特別會員　池原つぐ子

●仝市上旭町　●●●特別會員　星岩松江子

○神尾幹事紹介

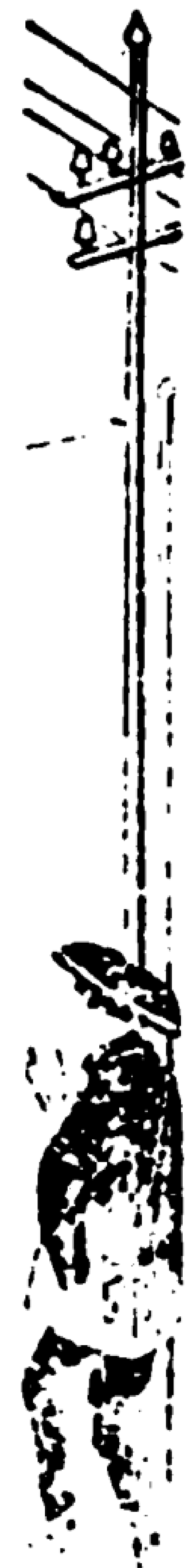
●仝市四堀通六番町　●●●特別會員　澤田てい子

○河上評議員紹介

●仝市左町通三番町　通常會員　金巻もや子

○田代顧問紹介

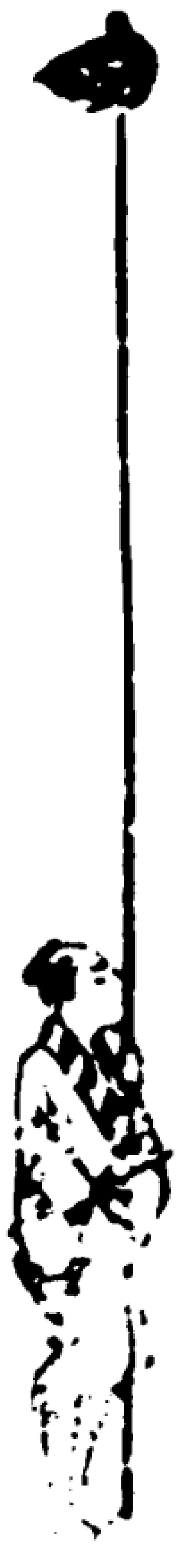
●仝市下旭町　●●●特別會員　吉田きん子



轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入本務所宛御一報相願候

●京橋區木挽町九ノ八へ　前島あか子
●赤坂區靈南坂町二十四へ　渡邊千施子
●北海道札幌區北三條西十二丁目一へ　柳橋とや子
●小石川區白山御殿町百十へ　中濱千代子
●臺灣阿猴廳警務課宿舍へ　原口まつ子
●大分縣速見郡日出町字三ノ丸へ　久持みね子
●牛込區南町二十八へ　河村千代子
●本郷區湯島四丁目十四へ　小林よね子
●小石川區原町四へ　阿野みつ子
●本所區綠町一ノ十六へ　武藤竹子
●相州横須賀濱ヶ谷官舍十一號へ　大井上かね子
●愛媛縣溫泉郡雄郡村字藤原へ　宮脇ちよう子
●芝區愛宕町東京病院内へ　平澤げん子



交換寄贈雜誌（二月分）

●日本赤十字　京橋區築地二ノ二十一　日本赤十字發行所
●日本婦人　府下澁谷村字常磐松　帝國婦人協會
●日本皮革時報　本所區表町五七　益・世社
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京教育雜誌　神田區錦町一ノ二十　東京教育雜誌發行所
●東京市教育會雜誌　東京市役所内　東京市教育會
●をんな　麹町區下二番町二十七　大日本女學會
●大阪醫學會雜誌　大阪市東區淡路町一ノ五八　大阪醫學會
●家庭新聞　熊本市北新坪井町三三　家庭新聞社
●家庭雜誌　麹町區中六番町十　由分社
●萬問答誌　茨城縣筑波郡板橋村　萬問答社
●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會
●體育　府下大井村字北濱川　日本體育會
●通俗衛生　大阪西區土佐堀通三ノ二九　大阪私立衛生會
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町　牟婁新報社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新聞　大阪西區江戸堀下通　藥石新報社
●藥業公論　豐多摩郡内藤新宿北裏町　藥業公論社
●經濟新報　麹町區永田町二ノ十　經濟新報編輯部
●京濱實業新報　神田區北神保町八　京濱實業新聞社
●婦人世界　大阪南區鰻谷町通四丁目　浩華婦人會
●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●婦人と子とも　本郷區女子高等師範學校　フレーベル會
●婦人　神戸市三ノ宮町一丁目　婦人協會
●福田會月報　麻布區笄町百三　福田會育兒院
●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●工手の母　大阪北區西野田新家西ノ町番外　工手の母新報社
●衛生報知　神戸市相生町一ノ廿七　私立神戸市衛生會
●越佐教育雜誌　新潟縣市東仲通一番町　越佐教育雜誌社
●英學生　小石川區小日向臺町　東西社
●衛生新報　下谷區池之端仲町　衛生新報社

（以下次號）

私立大日本婦人衛生會山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を指任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)談話會を開き毎年一回(五月)總會を開き談話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は質素なるを要す上盛及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)談話會ヲ開キ毎年五月談話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 談話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ務質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

高等助産婦養成所開設

第一學年生徒募集廣告

一 寄宿生十名通學生卅名

一 修業年限 二箇年

一 入學課程高等小學卒業以上(第二學年は高等女學校卒業程度)

一 課程

第一學年 倫理、國語、漢文、歷史、地理、數學。

第二學年 倫理、國語、漢文、歷史、地理、數學、物理、化學、動植物、

第三學年 倫理、物理、化學、生理、解剖、病理、藥物、繃帶學、看護學、助産學。

一 始業 四月十一日

東京市日本橋區濱町三丁目七番地

産科婦人科楠田病院内

高等助産婦養成所

私立大日本婦人衞生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衞生會に屬し婦人衞生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會員は左の六種とす 終身會員(一時限り)金貳拾五圓 特別會員 毎月金參拾錢 通常會員 金貳拾錢 支會員 毎月金拾錢 乙種會員 金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出で其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一冊を本部へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衞生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長二名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は二ヶ年とし再撰することを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は衞生雜誌規約會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合には臨時に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條 一般慈善救濟の援助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く婦服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

[illegible]

事務所新潟市本町通十三番町 中村[illegible]

明治廿九年四月創立 新潟支會

私立大日本婦人衞生會高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條 當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ以て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を陳述し三個月分以上の會費を添へ申込むべし●第五條 當支會に學術其の他の利益を與へらるゝ人士を推して顧問又は篤志贊助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別會員を定員外の評議員とす●第十條 當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開くものとす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出すものとす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附あるときは之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは役員會に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間を[illegible]に勵行すべし●第十八條 特に此規則に掲げざる事は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄居町五十番地 [illegible] 高崎支會

竹中成憲先生著書中素人諸君に適するもの

▲肺結核療法（總ての療法悉く集めあり） 貳圓四拾五錢
▲肺結核豫防法（豫防攝生の方法を示す） 參錢郵券拾八枚
▲産婆學（再版）（教授受驗の目的に適す） 同 參拾枚
▲ペスト（黒死病）（原因徴候及豫防法を示す） 同 九枚
▲肥滿の療法（ふとりたる人をやせる法） 同 九枚
▲救急法（怪俄の急病應急の手當） 同 拾貳枚
▲衞生寶典（内科諸病を一々説明す） 同 廿六枚

（皆郵税共）

東京市本郷區春木町貳丁目 半田屋
東京湯島天神町貳丁目廿六 鳳文堂
東京市神田區鍛冶町四番地 誠之堂

速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり●女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家飜譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

麹町區富士見町五丁目九番地
佃速記事務所
電話番町四十八番

◎日本體育會體操學校女子部

客年麹町區下二番町 成女學校内にて教授し來たりしが來四月より同區牛ヶ淵同會事務所内 新學校舎に移轉し更に此際高等科普通科各三十名撰科若干名を募集す

因に本校は設立日尚淺きも文部省檢定試驗に及第せるもの及全國各女學校に教授するもの多し

東京日本橋區本町二丁目
（電話本局千六百六番）

高橋齒科醫院

診察時間　午前九時ヨリ午後五時迄

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●本會徽章料左の如し●

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黒塗箱入送費九錢）

六十錢（桐箱入送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便取扱所）宛振出あるべし何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈の事

廣告料　一頁五圓半頁弐圓二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁廿二分一以下同之

本誌一部定價弐拾錢

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中鶴三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地　渡邊智

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場印刷

明治三十八年二月二十三日印刷及發行（毎月一回二十日發行）
婦人衛生雜誌第百八拾四號